

学校コード F140310110712

注3

設置年度 令和 2年度

計画の区分： 学部の学科の設置

注1

認可

注2

第一薬科大学 看護学部 看護学科

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人都築学園
令和4年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 大学事務局

職名・氏名

カンゴカクブジムシツチョウ ヤマダミツル
看護学部事務室長 山田満

電話番号

092-559-7331

（夜間）

092-541-0161

e-mail

ichiyaku-kango@daiichi-cps.ac.jp

（注）1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例） 〇〇大学 △△学部 □□学科

（旧名称：◇◇学科（平成◇◇年度より学科名称変更））

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻（修士課程）」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

看護学部

＜看護学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	19
4. 既設大学等の状況	20
5. 教員組織の状況	23
6. 附帯事項等に対する履行状況等	42
7. その他全般的事項	43

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人都築学園

(2) 大 学 名

第一薬科大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒815-8511

福岡県福岡市南区玉川町22番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(ツヅキ キミコ) 都築 仁子 (平成19年11月)		
学 長	(ツヅキ キミコ) 都築 仁子 (平成19年11月)		
学 部 長	(ヒラタ ノブコ) 平田 伸子 (令和2年4月)	(ヨシタケ タケト) 吉武 毅人 (令和3年4月)	変更理由：組織の改編・刷新のため 変更年月日：令和3年4月1日 報告年度 (3)
学科長等	(ヒラタ ノブコ) 平田 伸子 (令和2年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)

令和4年度に報告する内容 → (4)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください（作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について（依頼）」を確認してください）。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和4年度までの5年間）ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の 名称（学位）	学位又は学科 の分野	設 置 時 の 計 画				学生募集の停 止について	備 考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
看護学部 看護学科 学士（看護学）	保健衛生学関係 （看護学関係）	4 年	80 人	— 人	320 人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和○年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員 超 過 率	開設年度から 報告年度まで の平均入学定 員超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	80人 (-) [-]	人 (-) [-]	80人 (-) [-]	人 (-) [-]	80人 (-) [-]	人 (-) [-]	1.01倍	一 倍	
志願者数	() []	() []	() []	() []	198 (-) [-]	— (-) [-]	202 (-) [-]	— (-) [-]	322 (-) [-]	— (-) [-]			
受験者数	() []	() []	() []	() []	191 (-) [-]	— (-) [-]	189 (-) [-]	— (-) [-]	313 (-) [-]	— (-) [-]			
合格者数	() []	() []	() []	() []	163 (-) [-]	— (-) [-]	157 (-) [-]	— (-) [-]	196 (-) [-]	— (-) [-]			
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	78 (-) [-]	— (-) [-]	80 (-) [-]	— (-) [-]	84 (-) [-]	— (-) [-]			
入学定員超過率 B/A													

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和4年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	78 [-] (-)	— [-] (-)	80 [-] (-)	— [-] (-)	85 [-] (1)	— [-] (-)	
2 年次			[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[-] (-)	[-] (-)	77 [-] (3)	— [-] (-)	
3 年次					[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[-] (-)	[-] (-)	
4 年次							[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
計			[] ()	[] ()			[] ()	78 [—] (—)	155 [—] (—)	233 [—] (4)	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	78 人	3 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	3 人	0 人	心体疾患(1人)、他の教育機関への転学(1人)、就職(1人)
令和3年度	155 人	6 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	1 人	0 人	進路変更(1人)
			令和3年度	5 人	0 人	除籍(1人)、就職(2人)、他系の学校へ転学(1人)、精神疾患(1人)
令和4年度	233 人	0 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
合 計		9 人		9 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{3}{78} = \boxed{3.84} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{6}{155} = \boxed{3.87} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{233} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<看護学部 看護学科>

(1) ー① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
人文科学科目	心理学	1前	1								1
	文章表現論	1前	1								1
	倫理学	1前		1							1
	看護倫理	1前	1			6					
	生命・医療倫理学	1後		1							1
	文学Ⅰ	1前		1							1
	文学Ⅱ	1後		1							1
	哲学Ⅰ	1前		1							1
	哲学Ⅱ	1後		1							1
	小計(9科目)	ー	3	6	0	6	0	0	0	0	8
社会科学科目	医療コミュニケーション学	2前	1								1
	薬学への招待	1前	1								4
	経済学Ⅰ	1前		1							1
	経済学Ⅱ	1後		1							1
	ジェンダー論	1後	1								1
	日本国憲法	1後		1							1
	小計(6科目)	ー	3	3	0	0	0	0	0	0	9
自然科学科目	情報処理演習Ⅰ	1前	1								1
	情報処理演習Ⅱ	1後	1								1
	看護学生のための生物・化学	1前			1						6
	看護学生のための数学・物理	1前			1						3
	スポーツⅠ	1前		1							1
	スポーツⅡ	1後		1							1
	医療統計学	2後		2							2
	小計(7科目)	ー	2	4	2	0	0	0	0	0	15
外国語科目	英語	1前	1								1
	英会話	1前	1								2
	中国語Ⅰ	1前		1							1
	中国語Ⅱ	1後		1							1
	韓国語Ⅰ	1前		1							1
	韓国語Ⅱ	1後		1							1
	フランス語Ⅰ	1前		1							1
	フランス語Ⅱ	1後		1							1
	医療英語	3前	1								1
	小計(9科目)	ー	3	6	0	0	0	0	0	0	10
形態機能学科目	形態機能学Ⅰ	1前	2								1
	形態機能学Ⅱ	1後	2								1
	生化学	1後	2								4
	栄養学	2後	2								2
	小計(4科目)	ー	8	0	0	0	0	0	0	0	8
疾病基礎理論科目	病理学	2前	2								1
	微生物学	2前	2								2
	薬理学	2前	2								2
	臨床薬理学	2後	2								2
	臨床医学論Ⅰ(成人・高齢者)	2後	2			1					1
	臨床医学論Ⅱ(小児・産婦人科・精神)	2後	2								3
	漢方・民間薬概論	1後		1							1
	救急医療概論	3前		1							1
	ターミナルケア論(エンドオブライフケア論)	3前		1							1
	小計(9科目)	ー	12	3	0	1	0	0	0	0	14

【令和4年度】

新

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
人文科学科目	心理学	1前	1								1
	文章表現論	1前	1								1
	倫理学	1前		1							1
	看護倫理	1後	1			5					1
	生命・医療倫理学	1後		1							4
	文学Ⅰ	1前		1							1
	文学Ⅱ	1後		1							1
	哲学Ⅰ(未開講)	1前		1							
	哲学Ⅱ(未開講)	1後		1							
	小計(9科目)	ー	3	6	0	5	0	0	0	0	10
社会科学科目	医療コミュニケーション学	2前	1								1
	薬学への招待	1前	1								8
	経済学Ⅰ(未開講)	1前		1							
	経済学Ⅱ(未開講)	1後		1							
	ジェンダー論	1後	1								1
	日本国憲法	1後		1							1
	小計(6科目)	ー	3	3	0	0	0	0	0	0	11
自然科学科目	情報処理演習Ⅰ	1前	1								1
	情報処理演習Ⅱ	1後	1								1
	看護学生のための生物・化学	1前			1						5
	看護学生のための数学・物理	1前			1						3
	スポーツⅠ	1前		1							1
	スポーツⅡ	1後		1							1
	医療統計学	2前		2		1	1				
	小計(7科目)	ー	2	4	2	1	1	0	0	0	12
外国語科目	英語	1前	1								1
	英会話	1後	1								1
	中国語Ⅰ	1前		1							1
	中国語Ⅱ	1後		1							1
	韓国語Ⅰ	1前		1							1
	韓国語Ⅱ	1後		1							1
	フランス語Ⅰ(未開講)	1前		1							
	フランス語Ⅱ(未開講)	1後		1							
	医療英語	2前	1								1
	小計(9科目)	ー	3	6	0	0	0	0	0	0	7
形態機能学科目	形態機能学Ⅰ	1前	2								1
	形態機能学Ⅱ	1後	2								1
	生化学	1後	2								1
	栄養学	2後	2								2
	小計(4科目)	ー	8	0	0	0	0	0	0	0	5
疾病基礎理論科目	病理学	2前	2								1
	微生物学	2前	2								2
	薬理学	2前	2								2
	臨床薬理学	2後	2								2
	臨床医学論Ⅰ(成人・高齢者)	2前	2			1					4
	臨床医学論Ⅱ(小児・産婦人科・精神)	2後	2								8
	漢方・民間薬概論	1後		1							1
	救急医療概論	4前		1							1
	ターミナルケア論(エンドオブライフケア論)	4前		1							1
	小計(9科目)	ー	12	3	0	1	0	0	0	0	22

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼任
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
地域基礎教育科目	地域包括ケアシステム論	1通	2			1	1				1
	地域保健	2前	2			2	1	1			
	家族社会学	2前		2							1
	臨床心理学	2前		2							1
	疫学	2後		2							1
	公衆衛生学	3前	2			1					1
	健康政策論	3前		2		2					
	健康管理学	3前		1							2
	小計(8科目)	-	6	9	0	6	2	1	0	0	7
基礎看護学	看護学概論	1前	2			1		4	3	2	
	看護援助技術Ⅰ(看護基本技術)	1前	2			1		4	3	2	
	看護援助技術Ⅱ(日常生活の援助技術)	1後	2			1		4	3	2	
	看護援助技術Ⅲ(診断・治療に伴う援助技術)	1後	2			1		3	3	2	
	看護援助技術Ⅳ(フィジカルアセスメント)	2前	1					4	3	2	
	看護援助技術Ⅴ(看護過程)	2後	1			1	2	9	7	2	
	基礎看護学実習Ⅰ	1前	1			1	2	9	7	2	
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2			1	2	9	7	2	
	小計(8科目)	-	13	0	0	7	6	46	36	16	0
成人看護学	成人看護学概論	2後	2			1					
	成人看護援助論Ⅰ	3前	2			1	1	2	1	2	
	成人看護援助論Ⅱ	3前	2			1	1	2	1	2	
	成人看護学実習Ⅰ	3後	3			1	1	2	1	1	
	成人看護学実習Ⅱ	3後	3			1	1	2	1	1	
	小計(5科目)	-	12	0	0	5	4	8	4	6	0
高齢者看護学	高齢者看護学概論	2後	2			1		1			
	高齢者看護援助論	3前	2			1	1	1			
	高齢者看護学実習Ⅰ	1後	1			2	2	2	1	2	
	高齢者看護学実習Ⅱ	3後	3			1	1	1		1	
	小計(4科目)	-	8	0	0	5	4	5	1	3	0
小児看護学	小児看護学概論	2前	2			1		1			
	小児看護援助論	3前	2			1		1	1	1	
	小児看護学実習	3後	2			1		1	1	1	
	小計(3科目)	-	6	0	0	3	0	3	2	2	0
母性看護学	母性看護学概論	2前	2			1		1			
	母性看護援助論Ⅰ	2後	1			1		2	1	1	
	母性看護援助論Ⅱ	3前	2			1		2	1	1	
	母性看護学実習	3後	2			1		2	1		
	小計(4科目)	-	7	0	0	4	0	7	3	2	0
精神看護学	精神看護学概論	2後	2			1		1			
	メンタルヘルス論	1前	1			1		1			
	精神看護援助論	3前	1			1		1	1		
	精神看護学実習	3後	2			1		1	1		
	小計(4科目)	-	6	0	0	4	0	4	2	0	0
地域看護学	在宅看護概論	2後	2			1					
	在宅看護援助論	3前	1			1			1		
	公衆衛生看護学概論	2後	2			1					
	家族看護論	3前	1			1					
	在宅看護論実習	3後	2			2	1		1		
	小計(5科目)	-	8	0	0	6	1	0	2	0	0
統合実習	統合実習	4前	2			8	3	9	7	2	
	小計(1科目)	-	2	0	0	8	3	9	7	2	0
領域横断展開科目	国際看護学	2後	1			7					
	がん看護学	3前	1			3	1	1			
	チーム医療	4後	1			9	3	9	6	2	2
	総合看護学演習	4後	2			9	3	9	7	2	2
	小計(4科目)	-	5	0	0	28	7	19	13	4	4

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
地域基礎教育科目	地域包括ケアシステム論	1通	2			1	1				1
	地域保健	2後	2			2	1	1	1		
	家族社会学	2前		2							1
	臨床心理学	2前		2							1
	疫学	2後		2							2
	公衆衛生学	2前	2			1					1
	健康政策論	3前		2		2	1				
	健康管理学	3前		1							2
小計(8科目)	－	6	9	0	6	3	1	1	0	8	
基礎看護学	看護学概論	1前	2			1		4	2	1	
	看護援助技術Ⅰ(看護基本技術)	1前	2			1		4	2	1	
	看護援助技術Ⅱ(日常生活の援助技術)	1後	2			1		4	2	1	
	看護援助技術Ⅲ(診断・治療に伴う援助技術)	2後	2			1		4	2	1	
	看護援助技術Ⅳ(フィジカルアセスメント)	2後	1			2	1	4	2	1	1
	看護援助技術Ⅴ(看護過程)	2前	1			1	2	9	6	1	1
	基礎看護学実習Ⅰ	1前	1			1	2	8	6	1	
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2			1	2	9	6	1	
	小計(8科目)	－	13	0	0	9	7	47	38	8	2
成人看護学	成人看護学概論	1後	2			1					
	成人看護援助論Ⅰ	2前	2			1	1	2	1	1	
	成人看護援助論Ⅱ	3前	2			1	1	2	1	1	
	成人看護学実習Ⅰ	3後	3			1	1	2	1	1	
	成人看護学実習Ⅱ	3後	3			1	1	2	1	1	
	小計(5科目)	－	12	0	0	4	4	8	4	4	1
高齢者看護学	高齢者看護学概論	2前	2			1		1			
	高齢者看護援助論	3前	2			1	1	1			
	高齢者看護学実習Ⅰ	1後	1			3	1	2	2	1	
	高齢者看護学実習Ⅱ	3後	3			1	1	1		1	
	小計(4科目)	－	8	0	0	6	3	5	2	2	0
小児看護学	小児看護学概論	2後	2			1		1			
	小児看護援助論	3前	2			1		1	1	1	
	小児看護学実習	3後	2			1		1	1	1	
	小計(3科目)	－	6	0	0	3	0	3	2	2	0
母性看護学	母性看護学概論	2前	2			1		1			
	母性看護援助論Ⅰ	2後	1			1		2	1	1	
	母性看護援助論Ⅱ	3前	2			2		2	1	1	
	母性看護学実習	3後	2			1		2	1		
	小計(4科目)	－	7	0	0	5	0	7	3	2	0
精神看護学	精神看護学概論	2後	2			1		1			
	メンタルヘルス論	1前	1			1		1			
	精神看護援助論	3前	1			1		1	1		
	精神看護学実習	3後	2			1		1	1		
	小計(4科目)	－	6	0	0	4	0	4	2	0	0
地域看護学	在宅看護概論	2後	2			1					
	在宅看護援助論	3前	1			1			1		
	公衆衛生看護学概論	2後	2			1	1				
	家族看護論	2前	1			1	1				
	在宅看護論実習	3後	2			2	1		1		
	小計(5科目)	－	8	0	0	6	3	0	2	0	0
統合実習	統合実習	4前	2			8	3	9	7	1	
	小計(1科目)	－	2	0	0	8	3	9	7	1	0
領域横断展開科目	国際看護学	4後	1			6					1
	がん看護学	4前	1			3	1	1			
	チーム医療	4後	1			9	3	9	6	1	2
	総合看護学演習	4後	2			9	3	9	7	1	2
	小計(4科目)	－	5	0	0	27	7	19	13	2	5

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
キャリア 開発科目	スタディスキルセミナー	1前	1			9	3	9	7	2	
	看護管理・リーダーシップ論	4前	1			1		2			
	キャリアデザインセミナー	4通	2			9	3	9	7	2	
	小計(3科目)	－	4	0	0	19	6	20	14	4	0
看護学 研究科目	看護学研究Ⅰ	1通	1			2	3	7	5	2	
	看護学研究Ⅱ	2後	1			9	3	7	5	2	
	看護学研究Ⅲ	4通	2			9	3	7	5	2	
	小計(3科目)	－	4	0	0	20	9	21	15	6	0
保健師 教育科目	公衆衛生看護活動展開Ⅰ	4前		2		1					
	公衆衛生看護活動展開Ⅱ	4前		2		1					
	公衆衛生看護援助方法論	4前		2		1	1				
	公衆衛生看護管理論	4前		2		1					
	公衆衛生看護学実習	4前		5		1	1				
	小計(5科目)	－	0	13	0	5	2	0	0	0	0
助産師 教育科目	基礎助産学	3後		2		1		1			
	助産診断・技術学Ⅰ(妊産期)	3後		2		1		2	1	1	
	助産診断・技術学Ⅱ(産科手術・救急助産)	3後		2				1		1	1
	助産診断・技術学Ⅲ(分娩介助法)	3後		2		1		2	1	1	
	助産診断・技術学Ⅳ(産褥期・新生児期・乳幼児期)	3後		1		1		2	1	1	
	周産期健康教育論	3後		2		1		2	1	1	
	助産管理	4前		1		1					
	助産学実習	4前		9		1		2	1		
	小計(8科目)	－	0	21	0	7	0	12	5	5	1
合計(109科目)		－	112	65	2	134	44	155	104	50	76
卒業要件及び履修方法											
看護師を希望する者は、必修科目112単位(教養・基礎分野より11単位、専門支持分野より26単位、基礎看護学分野より13単位、専門実践分野より39単位、看護統合分野より23単位)、選択科目12単位(人文科学科目より2単位、社会科学科目より1単位、自然科学科目より2単位、外国語科目より2単位、疾病基礎理論科目より1単位、地域基盤教育科目より4単位)を履修し、合計124単位以上を修得していること。但し自由科目については卒業要件に含まない。											
保健師国家試験受験資格を希望する者は、看護師必修科目112単位に加え、保健師教育科目の全科目13単位、教養・基礎分野より5単位(日本国憲法、スポーツⅠ・Ⅱ、医療統計学)、専門支持分野より5単位(疫学、健康政策論、健康管理学)及び選択科目5単位(人文科学科目より2単位、外国語科目より2単位、疾病基礎理論科目より1単位)を履修し、合計140単位以上を修得していること。											
助産師国家試験受験資格を希望する者は、看護師の卒業要件124単位に加え、助産師教育科目の全科目21単位を履修し、合計145単位以上を修得していること。											
(履修科目の登録の上限:年間48単位、但し自由科目は含まない。)											

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置						兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
キャリア 開発科目	スタディスキルセミナー	1前	1			9	3	9	7	1	1	
	看護管理・リーダーシップ論	4前	1			1		2				
	キャリアデザインセミナー	4通	2			9	3	9	7	1		
	小計(3科目)	－	4	0	0	19	6	20	14	2	1	
看護学 研究科目	看護学研究Ⅰ	2前	1			2	3	6	5	1		
	看護学研究Ⅱ	3前	1			9	3	7	6	1	1	
	看護学研究Ⅲ	4通	2			9	3	7	5	1		
	小計(3科目)	－	4	0	0	20	9	20	16	3	1	
保健師 教育科目	公衆衛生看護活動展開論Ⅰ	3後		2		1						
	公衆衛生看護活動展開論Ⅱ	4前		2		1						
	公衆衛生看護援助方法論	3後		2		1	1					
	公衆衛生看護管理論	3後		2		1						
	公衆衛生看護学実習	4前		5		1	1					
	小計(5科目)	－	0	13	0	5	2	0	0	0	0	
助産師 教育科目	基礎助産学	3後		2		1		1				
	助産診断・技術学Ⅰ(妊産期)	3後		2		1		2	1	1		
	助産診断・技術学Ⅱ(産科手術・救急助産)	4前		2				1		1	1	
	助産診断・技術学Ⅲ(分娩介助法)	4前		2		1		2	1	1		
	助産診断・技術学Ⅳ(産褥期・新生児期・乳幼児期)	3後		1		1		2	1	1		
	周産期健康教育論	4前		2		1		2	1	1		
	助産管理	4後		1		1						
	助産学実習	4前		9		1		2	1			
	小計(8科目)	－	0	21	0	7	0	12	5	5	1	
合計(109科目)		－	112	65	2	132	44	156	109	27	91	
卒業要件及び履修方法												
看護師を希望する者は、必修科目112単位(教養・基礎分野より11単位、専門支持分野より26単位、基礎看護学分野より13単位、専門実践分野より39単位、看護統合分野より23単位)、選択科目12単位(人文科学科目より2単位、社会科学科目より1単位、自然科学科目より2単位、外国語科目より2単位、疾病基礎理論科目より1単位、地域基盤教育科目より4単位)を履修し、合計124単位以上を修得していること。但し自由科目については卒業要件に含まない。												
保健師国家試験受験資格を希望する者は、看護師必修科目112単位に加え、保健師教育科目の全科目13単位、教養・基礎分野より5単位(日本国憲法、スポーツⅠ・Ⅱ、医療統計学)、専門支持分野より5単位(疫学、健康政策論、健康管理学)及び選択科目5単位(人文科学科目より2単位、外国語科目より2単位、疾病基礎理論科目より1単位)を履修し、合計140単位以上を修得していること。												
助産師国家試験受験資格を希望する者は、看護師の卒業要件124単位に加え、助産師教育科目の全科目21単位を履修し、合計145単位以上を修得していること。												
(履修科目の登録の上限:年間48単位、但し自由科目は含まない。)												

【令和4年度】

旧

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼任
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
人文科学科目	心理学	1前	1								1
	文章表現論	1前	1								1
	倫理学	1前		1							1
	看護倫理	1前	1			5					1
	生命・医療倫理学	1後		1							1
	文学Ⅰ	1前		1							1
	文学Ⅱ	1後		1							1
	哲学Ⅰ	1前		1							1
	哲学Ⅱ	1後		1							1
	小計(9科目)	－	3	6	0	5	0	0	0	0	9
社会科学科目	医療コミュニケーション学	2前	1								1
	薬学への招待	1前	1								8
	経済学Ⅰ	1前		1							1
	経済学Ⅱ	1後		1							1
	ジェンダー論	1後	1								1
	日本国憲法	1後		1							1
	小計(6科目)	－	3	3	0	0	0	0	0	0	13
自然科学科目	情報処理演習Ⅰ	1前	1								1
	情報処理演習Ⅱ	1後	1								1
	看護学生のための生物・化学	1前			1						5
	看護学生のための数学・物理	1前			1						3
	スポーツⅠ	1前		1							1
	スポーツⅡ	1後		1							1
	医療統計学	2後		2							1
	小計(7科目)	－	2	4	2	0	0	0	0	0	13
外国語科目	英語	1前	1								1
	英会話	1後	1								1
	中国語Ⅰ	1前		1							1
	中国語Ⅱ	1後		1							1
	韓国語Ⅰ	1前		1							1
	韓国語Ⅱ	1後		1							1
	フランス語Ⅰ(未開講)	1前		1							
	フランス語Ⅱ(未開講)	1後		1							
	医療英語	3前	1								1
	小計(9科目)	－	3	6	0	0	0	0	0	0	7
形態機能学 科目	形態機能学Ⅰ	1前	2								1
	形態機能学Ⅱ	1後	2								1
	生化学	1後	2								4
	栄養学	2後	2								2
	小計(4科目)	－	8	0	0	0	0	0	0	0	8
疾病基礎 理論科目	病理学	2前	2								1
	微生物学	2前	2								2
	薬理学	2前	2								2
	臨床薬理学	2後	2								2
	臨床医学論Ⅰ(成人・高齢者)	2後	2			1					4
	臨床医学論Ⅱ(小児・産婦人科・精神)	2後	2								8
	漢方・民間薬概論	1後		1							1
	救急医療概論	3前		1							1
	ターミナルケア論(エンドオブライフケア論)	3前		1							1
	小計(9科目)	－	12	3	0	1	0	0	0	0	22

【令和3年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
人 文 科 学 科 目	心理学	1前	1								1
	文章表現論	1前	1								1
	倫理学	1前		1							1
	看護倫理	1前	1			5					1
	生命・医療倫理学	1後		1							1
	文学Ⅰ	1前		1							1
	文学Ⅱ	1後		1							1
	哲学Ⅰ	1前		1							1
	哲学Ⅱ	1後		1							1
	小計(9科目)	－	3	6	0	5	0	0	0	0	9
社 会 科 学 科 目	医療コミュニケーション学	2前	1								1
	薬学への招待	1前	1								8
	経済学Ⅰ	1前		1							1
	経済学Ⅱ	1後		1							1
	ジェンダー論	1後	1								1
	日本国憲法	1後		1							1
	小計(6科目)	－	3	3	0	0	0	0	0	0	13
自 然 科 学 科 目	情報処理演習Ⅰ	1前	1								1
	情報処理演習Ⅱ	1後	1								1
	看護学生のための生物・化学	1前			1						5
	看護学生のための数学・物理	1前			1						3
	スポーツⅠ	1前		1							1
	スポーツⅡ	1後		1							1
	医療統計学	2後		2							1
	小計(7科目)	－	2	4	2	0	0	0	0	0	13
外 国 語 科 目	英語	1前	1								1
	英会話	1後	1								1
	中国語Ⅰ	1前		1							1
	中国語Ⅱ	1後		1							1
	韓国語Ⅰ	1前		1							1
	韓国語Ⅱ	1後		1							1
	フランス語Ⅰ(未開講)	1前		1							
	フランス語Ⅱ(未開講)	1後		1							
	医療英語	3前	1								1
	小計(9科目)	－	3	6	0	0	0	0	0	0	7
形 態 機 能 学 科 目	形態機能学Ⅰ	1前	2								1
	形態機能学Ⅱ	1後	2								1
	生化学	1後	2								4
	栄養学	2後	2								2
	小計(4科目)	－	8	0	0	0	0	0	0	0	8
疾 病 基 礎 理 論 科 目	病理学	2前	2								1
	微生物学	2前	2								2
	薬理学	2前	2								2
	臨床薬理学	2後	2								2
	臨床医学論Ⅰ(成人・高齢者)	2後	2			1					4
	臨床医学論Ⅱ(小児・産婦人科・精神)	2後	2								8
	漢方・民間薬概論	1後		1							1
	救急医療概論	3前		1							1
	ターミナルケア論(エンドオブライフケア論)	3前		1							1
	小計(9科目)	－	12	3	0	1	0	0	0	0	22

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
地域基礎教育科目	地域包括ケアシステム論	1通	2			1	1				1
	地域保健	2後	2			2	1	1			
	家族社会学	2前		2							1
	臨床心理学	2前		2							1
	疫学	2後		2							2
	公衆衛生学	3前	2			1					1
	健康政策論	3前		2		2					
	健康管理学	3前		1							2
	小計(8科目)	－	6	9	0	6	2	1	0	0	8
基礎看護学	看護学概論	1前	2			1		4	3	1	
	看護援助技術Ⅰ(看護基本技術)	1前	2			1		4	3	1	
	看護援助技術Ⅱ(日常生活の援助技術)	1後	2			1		4	3	1	
	看護援助技術Ⅲ(診断・治療に伴う援助技術)	1後	2			1		4	3	1	
	看護援助技術Ⅳ(フィジカルアセスメント)	2後	1			2	1	4	3	1	1
	看護援助技術Ⅴ(看護過程)	2前	1			1	2	9	7	1	1
	基礎看護学実習Ⅰ	1前	1			1	2	9	7	1	
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2			1	2	9	7	1	
	小計(8科目)	－	13	0	0	9	7	47	36	8	2
成人看護学	成人看護学概論	2後	2								1
	成人看護援助論Ⅰ	3前	2			1	1	2	1	2	
	成人看護援助論Ⅱ	3前	2			1	1	2	1	2	
	成人看護学実習Ⅰ	3後	3			1	1	2	1	1	
	成人看護学実習Ⅱ	3後	3			1	1	2	1	1	
	小計(5科目)	－	12	0	0	4	4	8	4	6	1
高齢者看護学	高齢者看護学概論	2後	2			1		1			
	高齢者看護援助論	3前	2			1	1	1			
	高齢者看護学実習Ⅰ	1後	1			3	1	2	2	1	
	高齢者看護学実習Ⅱ	3後	3			1	1	1		1	
	小計(4科目)	－	8	0	0	6	3	5	2	2	0
小児看護学	小児看護学概論	2前	2			1		1			
	小児看護援助論	3前	2			1		1	1	1	
	小児看護学実習	3後	2			1		1	1	1	
	小計(3科目)	－	6	0	0	3	0	3	2	2	0
母性看護学	母性看護学概論	2前	2			1		1			
	母性看護援助論Ⅰ	2後	1			1		2	1	1	
	母性看護援助論Ⅱ	3前	2			1		2	1	1	
	母性看護学実習	3後	2			1		2	1		
	小計(4科目)	－	7	0	0	4	0	7	3	2	0
精神看護学	精神看護学概論	2後	2			1		1			
	メンタルヘルス論	1前	1			1		1			
	精神看護援助論	3前	1			1		1	1		
	精神看護学実習	3後	2			1		1	1		
	小計(4科目)	－	6	0	0	4	0	4	2	0	0
地域看護学	在宅看護概論	2後	2			1					
	在宅看護援助論	3前	1			1			1		
	公衆衛生看護学概論	2前	2			1					
	家族看護論	3前	1			1					
	在宅看護論実習	3後	2			2	1		1		
	小計(5科目)	－	8	0	0	6	1	0	2	0	0
統合実習	統合実習	4前	2			8	3	9	7	2	
	小計(1科目)	－	2	0	0	8	3	9	7	2	0
領域横断展開科目	国際看護学	2後	1			6					1
	がん看護学	3前	1			3	1	1			
	チーム医療	4後	1			9	3	9	6	2	2
	総合看護学演習	4後	2			9	3	9	7	2	2
	小計(4科目)	－	5	0	0	27	7	19	13	4	5

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
地域基礎教育科目	地域包括ケアシステム論	1通	2			1	1				1
	地域保健	2後	2			2	1	1			
	家族社会学	2前		2							1
	臨床心理学	2前		2							1
	疫学	2後		2							2
	公衆衛生学	3前	2			1					1
	健康政策論	3前		2		2					
	健康管理学	3前		1							2
	小計(8科目)	－	6	9	0	6	2	1	0	0	8
基礎看護学	看護学概論	1前	2			1		4	3	1	
	看護援助技術Ⅰ(看護基本技術)	1前	2			1		4	3	1	
	看護援助技術Ⅱ(日常生活の援助技術)	1後	2			1		4	3	1	
	看護援助技術Ⅲ(診断・治療に伴う援助技術)	1後	2			1		4	3	1	
	看護援助技術Ⅳ(フィジカルアセスメント)	2後	1			2	1	4	3	1	1
	看護援助技術Ⅴ(看護過程)	2前	1			1	2	9	7	1	1
	基礎看護学実習Ⅰ	1前	1			1	2	9	7	1	
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2			1	2	9	7	1	
	小計(8科目)	－	13	0	0	9	7	47	36	8	2
成人看護学	成人看護学概論	2後	2								1
	成人看護援助論Ⅰ	3前	2			1	1	2	1	2	
	成人看護援助論Ⅱ	3前	2			1	1	2	1	2	
	成人看護学実習Ⅰ	3後	3			1	1	2	1	1	
	成人看護学実習Ⅱ	3後	3			1	1	2	1	1	
	小計(5科目)	－	12	0	0	4	4	8	4	6	1
高齢者看護学	高齢者看護学概論	2後	2			1		1			
	高齢者看護援助論	3前	2			1	1	1			
	高齢者看護学実習Ⅰ	1後	1			3	1	2	2	1	
	高齢者看護学実習Ⅱ	3後	3			1	1	1		1	
	小計(4科目)	－	8	0	0	6	3	5	2	2	0
小児看護学	小児看護学概論	2前	2			1		1			
	小児看護援助論	3前	2			1		1	1	1	
	小児看護学実習	3後	2			1		1	1	1	
	小計(3科目)	－	6	0	0	3	0	3	2	2	0
母性看護学	母性看護学概論	2前	2			1		1			
	母性看護援助論Ⅰ	2後	1			1		2	1	1	
	母性看護援助論Ⅱ	3前	2					2	1	1	
	母性看護学実習	3後	2			1		2	1		
	小計(4科目)	－	7	0	0	4	0	7	3	2	0
精神看護学	精神看護学概論	2後	2			1		1			
	メンタルヘルス論	1前	1			1		1			
	精神看護援助論	3前	1			1		1	1		
	精神看護学実習	3後	2			1		1	1		
	小計(4科目)	－	6	0	0	4	0	4	2	0	0
地域看護学	在宅看護概論	2後	2			1					
	在宅看護援助論	3前	1			1			1		
	公衆衛生看護学概論	2前	2			1					
	家族看護論	3前	1			1					
	在宅看護論実習	3後	2			2	1		1		
	小計(5科目)	－	8	0	0	6	1	0	2	0	0
統合実習	統合実習	4前	2			8	3	9	7	2	
	小計(1科目)	－	2	0	0	8	3	9	7	2	0
領域横断展開科目	国際看護学	2後	1			6					1
	がん看護学	3前	1			3	1	1			
	チーム医療	4後	1			9	3	9	6	2	2
	総合看護学演習	4後	2			9	3	9	7	2	2
	小計(4科目)	－	5	0	0	27	7	19	13	4	5

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置						兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
キャリア 開発科目	スタディスキルセミナー	1前	1			8	3	9	7	1	1	
	看護管理・リーダーシップ論	4前	1			1		2				
	キャリアデザインセミナー	4通	2			9	3	9	7	2		
	小計(3科目)	—	4	0	0	18	6	20	14	3	1	
看護学 研究科目	看護学研究Ⅰ	1通	1			2	3	7	6	1		
	看護学研究Ⅱ	2後	1			8	3	7	6	1	1	
	看護学研究Ⅲ	4通	2			9	3	7	5	2		
	小計(3科目)	—	4	0	0	19	9	21	17	4	1	
保健師 教育科目	公衆衛生看護活動展開論Ⅰ	3後		2		1						
	公衆衛生看護活動展開論Ⅱ	4前		2		1						
	公衆衛生看護援助方法論	3後		2		1	1					
	公衆衛生看護管理論	3後		2		1						
	公衆衛生看護学実習	4前		5		1	1					
	小計(5科目)	—	0	13	0	5	2	0	0	0	0	
助産師 教育科目	基礎助産学	3後		2		1		1				
	助産診断・技術学Ⅰ(妊産期)	3後		2		1		2	1	1		
	助産診断・技術学Ⅱ(産科手術・救急助産)	3後		2				1		1	1	
	助産診断・技術学Ⅲ(分娩介助法)	3後		2		1		2	1	1		
	助産診断・技術学Ⅳ(産褥期・新生児期・乳幼児期)	3後		1		1		2	1	1		
	周産期健康教育論	3後		2		1		2	1	1		
	助産管理	4前		1		1						
	助産学実習	4前		9		1		2	1			
	小計(8科目)	—	0	21	0	7	0	12	5	5	1	
合計(109科目)			—	112	65	2	132	44	156	107	38	91
卒業要件及び履修方法												
看護師を希望する者は、必修科目112単位(教養・基礎分野より11単位、専門支持分野より26単位、基礎看護学分野より13単位、専門実践分野より39単位、看護統合分野より23単位)、選択科目12単位(人文科学科目より2単位、社会科学科目より1単位、自然科学科目より2単位、外国語科目より2単位、疾病基礎理論科目より1単位、地域基盤教育科目より4単位)を履修し、合計124単位以上を修得していること。但し自由科目については卒業要件に含まない。 保健師国家試験受験資格を希望する者は、看護師必修科目112単位に加え、保健師教育科目の全科目13単位、教養・基礎分野より5単位(日本国憲法、スポーツⅠ・Ⅱ、医療統計学)、専門支持分野より5単位(疫学、健康政策論、健康管理学)及び選択科目5単位(人文科学科目より2単位、外国語科目より2単位、疾病基礎理論科目より1単位)を履修し、合計140単位以上を修得していること。 助産師国家試験受験資格を希望する者は、看護師の卒業要件124単位に加え、助産師教育科目の全科目21単位を履修し、合計145単位以上を修得していること。 (履修科目の登録の上限:年間48単位、但し自由科目は含まない。)												

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置						兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
キャリア 開発科目	スタディスキルセミナー	1前	1			8	3	9	7	1	1	
	看護管理・リーダーシップ論	4前	1			1		2				
	キャリアデザインセミナー	4通	2			9	3	9	7	2		
	小計(3科目)	－	4	0	0	18	6	20	14	3	1	
看護学 研究科目	看護学研究Ⅰ	1通	1			2	3	7	6	1		
	看護学研究Ⅱ	2後	1			8	3	7	6	1	1	
	看護学研究Ⅲ	4通	2			9	3	7	5	2		
	小計(3科目)	－	4	0	0	19	9	21	17	4	1	
保健師 教育科目	公衆衛生看護活動展開論Ⅰ	4前		2		1						
	公衆衛生看護活動展開論Ⅱ	4前		2		1						
	公衆衛生看護援助方法論	4前		2		1	1					
	公衆衛生看護管理論	4前		2		1						
	公衆衛生看護学実習	4前		5		1	1					
	小計(5科目)	－	0	13	0	5	2	0	0	0	0	
助産師 教育科目	基礎助産学	3後		2		1		1				
	助産診断・技術Ⅰ(妊産期)	3後		2		1		2	1	1		
	助産診断・技術Ⅱ(産科手術・救急助産)	3後		2				1		1	1	
	助産診断・技術Ⅲ(分娩介助法)	3後		2		1		2	1	1		
	助産診断・技術Ⅳ(産褥期・新生児期・乳幼児期)	3後		1		1		2	1	1		
	周産期健康教育論	3後		2		1		2	1	1		
	助産管理	4前		1		1						
	助産学実習	4前		9		1		2	1			
	小計(8科目)	－	0	21	0	7	0	12	5	5	1	
合計(109科目)			－	112	65	2	136	48	155	110	38	86
卒業要件及び履修方法												
看護師を希望する者は、必修科目112単位(教養・基礎分野より11単位、専門支持分野より26単位、基礎看護学分野より13単位、専門実践分野より39単位、看護統合分野より23単位)、選択科目12単位(人文科学科目より2単位、社会科学科目より1単位、自然科学科目より2単位、外国語科目より2単位、疾病基礎理論科目より1単位、地域基盤教育科目より4単位)を履修し、合計124単位以上を修得していること。但し自由科目については卒業要件に含まない。												
保健師国家試験受験資格を希望する者は、看護師必修科目112単位に加え、保健師教育科目の全科目13単位、教養・基礎分野より5単位(日本国憲法、スポーツⅠ・Ⅱ、医療統計学)、専門支持分野より5単位(疫学、健康政策論、健康管理学)及び選択科目5単位(人文科学科目より2単位、外国語科目より2単位、疾病基礎理論科目より1単位)を履修し、合計140単位以上を修得していること。												
助産師国家試験受験資格を希望する者は、看護師の卒業要件124単位に加え、助産師教育科目の全科目21単位を履修し、合計145単位以上を修得していること。												
(履修科目の登録の上限:年間48単位、但し自由科目は含まない。)												

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
人文科学科目	心理学	1前	1								1
	文章表現論	1前	1								1
	倫理学	1前		1							1
	看護倫理	1前	1			3					3
	生命・医療倫理学	1後		1							1
	文学Ⅰ	1前		1							1
	文学Ⅱ	1後		1							1
	哲学Ⅰ	1前		1							1
	哲学Ⅱ	1後		1							1
	小計(9科目)	－	3	6	0	3	0	0	0	0	11
社会科学科目	医療コミュニケーション学	2前	1								1
	薬学への招待	1前	1								5
	経済学Ⅰ	1前		1							1
	経済学Ⅱ	1後		1							1
	ジェンダー論	1後	1								1
	日本国憲法	1後		1							1
	小計(6科目)	－	3	3	0	0	0	0	0	0	10
自然科学科目	情報処理演習Ⅰ	1前	1								1
	情報処理演習Ⅱ	1後	1								1
	看護学生のための生物・化学	1前			1						5
	看護学生のための数学・物理	1前			1						3
	スポーツⅠ	1前		1							1
	スポーツⅡ	1後		1							1
	医療統計学	2後		2							2
	小計(7科目)	－	2	4	2	0	0	0	0	0	14
外国語科目	英語	1前	1								1
	英会話	1後	1								1
	中国語Ⅰ	1前		1							1
	中国語Ⅱ	1後		1							1
	韓国語Ⅰ	1前		1							1
	韓国語Ⅱ	1後		1							1
	フランス語Ⅰ	1前		1							1
	フランス語Ⅱ	1後		1							1
	医療英語	3前	1								1
	小計(9科目)	－	3	6	0	0	0	0	0	0	9
形態機能学科目	形態機能学Ⅰ	1前	2								1
	形態機能学Ⅱ	1後	2								1
	生化学	1後	2								4
	栄養学	2後	2								2
	小計(4科目)	－	8	0	0	0	0	0	0	0	8
疾病基礎理論科目	病理学	2前	2								1
	微生物学	2前	2								2
	薬理学	2前	2								2
	臨床薬理学	2後	2								2
	臨床医学論Ⅰ(成人・高齢者)	2後	2		1						1
	臨床医学論Ⅱ(小児・産婦人科・精神)	2後	2								3
	漢方・民間薬概論	1後		1							1
	救急医療概論	3前		1							1
	ターミナルケア論(エンドオブライフケア論)	3前		1							1
	小計(9科目)	－	12	3	0	1	0	0	0	0	14

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
地域 基礎 教育 科目	地域包括ケアシステム論	1通	2			1	1				1
	地域保健	2前	2			2	1	1			
	家族社会学	2前		2							1
	臨床心理学	2前		2							1
	疫学	2後		2							1
	公衆衛生学	3前	2			1					1
	健康政策論	3前		2		2					
	健康管理学	3前		1							2
	小計(8科目)	-	6	9	0	6	2	1	0	0	7
基礎 看護 学	看護学概論	1前	2			1		3	3	1	1
	看護援助技術Ⅰ(看護基本技術)	1前	2			1		3	3	1	1
	看護援助技術Ⅱ(日常生活の援助技術)	1後	2			1		3	3	1	1
	看護援助技術Ⅲ(診断・治療に伴う援助技術)	1後	2			1		2	3	1	1
	看護援助技術Ⅳ(フィジカルアセスメント)	2前	1					4	3	2	
	看護援助技術Ⅴ(看護過程)	2後	1			1	2	9	7	2	
	基礎看護学実習Ⅰ	1前	1			1	2	6	4	1	
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2			1	2	9	7	2	
	小計(8科目)	-	13	0	0	7	6	39	33	11	4
成人 看護 学	成人看護学概論	2後	2			1					
	成人看護援助論Ⅰ	3前	2			1	1	2	1	2	
	成人看護援助論Ⅱ	3前	2			1	1	2	1	2	
	成人看護学実習Ⅰ	3後	3			1	1	2	1	1	
	成人看護学実習Ⅱ	3後	3			1	1	2	1	1	
	小計(5科目)	-	12	0	0	5	4	8	4	6	0
高齢 者 看護 学	高齢者看護学概論	2後	2			1		1			
	高齢者看護援助論	3前	2			1	1	1			
	高齢者看護学実習Ⅰ	1後	1			2	1	2	2	1	
	高齢者看護学実習Ⅱ	3後	3			1	1	1		1	
	小計(4科目)	-	8	0	0	5	3	5	2	2	0
小児 看護 学	小児看護学概論	2前	2			1		1			
	小児看護援助論	3前	2			1		1	1	1	
	小児看護学実習	3後	2			1		1	1	1	
	小計(3科目)	-	6	0	0	3	0	3	2	2	0
母性 看護 学	母性看護学概論	2前	2			1		1			
	母性看護援助論Ⅰ	2後	1			1		2	1	1	
	母性看護援助論Ⅱ	3前	2			1		2	1	1	
	母性看護学実習	3後	2			1		2	1		
	小計(4科目)	-	7	0	0	4	0	7	3	2	0
精神 看護 学	精神看護学概論	2後	2			1		1			
	メンタルヘルス論	1前	1			1					1
	精神看護援助論	3前	1			1		1	1		
	精神看護学実習	3後	2			1		1	1		
	小計(4科目)	-	6	0	0	4	0	3	2	0	1
地域 看護 学	在宅看護概論	2後	2			1					
	在宅看護援助論	3前	1			1			1		
	公衆衛生看護学概論	2後	2			1					
	家族看護論	3前	1			1					
	在宅看護論実習	3後	2			2	1		1		
	小計(5科目)	-	8	0	0	6	1	0	2	0	0
統合 実習	統合実習	4前	2			8	3	9	7	2	
	小計(1科目)	-	2	0	0	8	3	9	7	2	0
領域 横断 展開 科目	国際看護学	2後	1			7					
	がん看護学	3前	1			3	1	1			
	チーム医療	4後	1			9	3	9	6	2	2
	総合看護学演習	4後	2			9	3	9	7	2	2
	小計(4科目)	-	5	0	0	28	7	19	13	4	4

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置						兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
キ ャ リ ア 開 発 科 目	スタディスキルセミナー	1前	1			6	3	6	4	1	1	
	看護管理・リーダーシップ論	4前	1			1		2				
	キャリアデザインセミナー	4通	2			9	3	9	7	2		
	小計(3科目)	－	4	0	0	16	6	17	11	3	1	
看 護 学 研 究 科 目	看護学研究Ⅰ	1通	1			2	3	4	3	1	1	
	看護学研究Ⅱ	2後	1			9	3	7	5	2		
	看護学研究Ⅲ	4通	2			9	3	7	5	2		
	小計(3科目)	－	4	0	0	20	9	18	13	5	1	
保 健 師 教 育 科 目	公衆衛生看護活動展開Ⅰ	4前		2		1						
	公衆衛生看護活動展開Ⅱ	4前		2								
	公衆衛生看護援助方法論	4前		2		1	1					
	公衆衛生看護管理論	4前		2		1						
	公衆衛生看護学実習	4前		5		1	1					
	小計(5科目)	－	0	13	0	5	2	0	0	0	0	
助 産 師 教 育 科 目	基礎助産学	3後		2		1		1				
	助産診断・技術学Ⅰ(妊娠期)	3後		2		1		2	1	1		
	助産診断・技術学Ⅱ(産科手術・救急助産)	3後		2				1		1	1	
	助産診断・技術学Ⅲ(分娩介助法)	3後		2		1		2	1	1		
	助産診断・技術学Ⅳ(産褥期・新生児期・乳幼児期)	3後		1		1		2	1	1		
	周産期健康教育論	3後		2		1		2	1	1		
	助産管理	4前		1		1						
	助産学実習	4前		9		1		2	1			
	小計(8科目)	－	0	21	0	7	0	12	5	5	1	
合計(109科目)		－	112	65	2	128	43	141	97	42	85	
卒業要件及び履修方法												
看護師を希望する者は、必修科目112単位(教養・基礎分野より11単位、専門支持分野より26単位、基礎看護学分野より13単位、専門実践分野より39単位、看護統合分野より23単位)、選択科目12単位(人文科学科目より2単位、社会科学科目より1単位、自然科学科目より2単位、外国語科目より2単位、疾病基礎理論科目より1単位、地域基盤教育科目より4単位)を履修し、合計124単位以上を修得していること。但し自由科目については卒業要件に含まない。 保健師国家試験受験資格を希望する者は、看護師必修科目112単位に加え、保健師教育科目の全科目13単位、教養・基礎分野より5単位(日本国憲法、スポーツⅠ・Ⅱ、医療統計学)、専門支持分野より5単位(疫学、健康政策論、健康管理学)及び選択科目5単位(人文科学科目より2単位、外国語科目より2単位、疾病基礎理論科目より1単位)を履修し、合計140単位以上を修得していること。 助産師国家試験受験資格を希望する者は、看護師の卒業要件124単位に加え、助産師教育科目の全科目21単位を履修し、合計145単位以上を修得していること。 (履修科目の登録の上限:年間48単位、但し自由科目は含まない。)												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために**未開講となった科目**についても**科目名の後ろに「(未開講)」**として記入してください。
 - ・ **1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。**
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

・荒井教授就任辞退により、安藤教授に変更。令和元年10月AC教員審査済み。
・尾田助教就任辞退により、竹井助教に変更。令和元年12月AC教員審査済み。
・西田助教就任辞退により、小川助教に変更。令和元年12月AC教員審査済み。
・認可時の専任教員の配置に令和3年度着任予定の教員が含まれているため、今年度のみ「看護倫理」の専任教員等の配置を「教授6」から「教授3」・「兼任3」に変更。
・兼任教員の担当部分を変更したため、「薬学への招待」の配置を「兼任4」から「兼任5」に変更。
・兼任教員のうち1名が退職したため、「看護学生のための生物・化学」の配置を「兼任6」から「兼任5」に変更。
・兼任教員のうち1名が退職、1名が辞退したため、「英会話」の配置を「兼任2」から「兼任1」に変更。
・兼任教員の都合により、「英会話」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。
・村井講師就任辞退。後任未定であるが、令和2年9月から専任教員採用予定で公募中。
・専任教員の就任辞退および助手1名が採用に至らなかったため、「看護学概論」の配置を「講師4」から「講師3」、「助手2」から「助手1」、「兼任0」から「兼任1」に変更。
・専任教員の就任辞退および助手1名が採用に至らなかったため、「看護援助技術Ⅰ（看護基本技術）」の配置を「講師4」から「講師3」、「助手2」から「助手1」、「兼任0」から「兼任1」に変更。
・専任教員の就任辞退および助手1名が採用に至らなかったため、「看護援助技術Ⅱ（日常生活の援助技術）」の配置を「講師4」から「講師3」、「助手2」から「助手1」、「兼任0」から「兼任1」に変更。
・専任教員の就任辞退および助手1名が採用に至らなかったため、「看護援助技術Ⅲ（診断・治療に伴う援助技術）」の配置を「講師3」から「講師2」、「助手2」から「助手1」、「兼任0」から「兼任1」に変更。
・認可時の専任教員の配置に令和3年度着任予定の教員が含まれていること、更には専任教員の就任辞退および助手1名が採用に至らなかったため、「基礎看護学実習Ⅰ」の配置を「講師9」から「講師6」、「助教7」から「助教4」、「助手2」から「助手1」、「兼任0」から「兼任1」に変更。
・補正申請時の教員審査で不可だった専任教員に代わり、別の職位の専任教員が担当すること、また助手1名が採用に至らなかったため、「高齢者看護学実習Ⅰ」の配置を「准教授2」から「准教授1」、「助教1」から「助教2」、「助手2」から「助手1」に変更。
・認可時の専任教員の配置に令和3年度着任予定の教員が含まれているため、「メンタルヘルズ論」の配置を「講師1」から「講師0」、「兼任0」から「兼任1」に変更。
・認可時の専任教員の配置に令和3年度着任予定の教員が含まれているため、「スタディスキルセミナー」の配置を「教授9」から「教授6」、「講師9」から「講師6」、「助教7」から「助教4」に変更。また助手1名が採用に至らなかったため、「助手2」から「助手1」に変更。
・認可時の専任教員の配置に令和3年度着任予定の教員が含まれているため、「看護学研究Ⅰ」の配置を「講師7」から「講師4」、「助教5」から「助教3」、「兼任0」から「兼任1」に変更。また助手1名が採用に至らなかったため、「助手2」から「助手1」に変更。

【令和3年度】

・立石教授就任辞退。そのため令和3年度第1回AC教員審査受審中。
・教授として着任予定の専任教員1名が辞退したため、「看護倫理」の配置を「教授6」から「教授5」「兼任1」に変更。
・兼任教員の担当部分を変更したため、「薬学への招待」の配置を「兼任4」から「兼任8」に変更。
・兼任教員の担当部分を変更したため、「看護学生のための生物・化学」の配置を「兼任6」から「兼任5」に変更。
・兼任教員の担当部分を変更したため、「医療統計学」の配置を「兼任2」から「兼任1」に変更。
・兼任教員の都合により、「英会話」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。
・兼任教員のうち1名が退職、1名が辞退したため、「英会話」の配置を「兼任2」から「兼任1」に変更。
・兼任教員の担当部分を変更したため、「臨床医学Ⅰ（成人・高齢者）」の配置を「教授1」「兼任1」から「教授1」「兼任4」に変更。
・兼任教員の担当部分を変更したため、「臨床医学Ⅱ（小児・産婦人科・精神）」の配置を「兼任3」から「兼任8」に変更。
・学生の学びを円滑に進めるため、「地域保健」の配当年次を「2前」から「2後」に変更。
・兼任教員が担当できなくなったため、「疫学」の配置を「兼任1」から「兼任2」に変更。
・助手1名が採用に至らなかったため、「看護学概論」「看護援助技術Ⅰ（看護基本技術）」「看護援助技術Ⅱ（日常生活の援助技術）」「看護援助技術Ⅲ（診断・治療に伴う援助技術）」「看護援助技術Ⅳ（フィジカルアセスメント）」「看護基本技術Ⅴ（看護過程）」「基礎看護学実習Ⅰ」「基礎看護学実習Ⅱ」「高齢者看護学実習Ⅰ」「スタディスキルセミナー」「看護学研究Ⅰ」「看護学研究Ⅱ」の配置を「助手2」から「助手1」に変更。
・学修効果を高めるため、「看護援助技術Ⅲ（診断・治療に伴う援助技術）」の配置に講師を1名追加し、「講師3」から「講師4」に変更。
・学生の学びを円滑に行うため、「看護基本技術Ⅳ（フィジカルアセスメント）」の配当年次を「2前」から「2後」に変更。
・学修効果を高めるため、「看護基本技術Ⅳ（フィジカルアセスメント）」の配置に教授2名、准教授1名、兼任1名を追加し、「教授0」「准教授0」「兼任0」から「教授2」「准教授1」「兼任1」に変更。
・学生の学びを円滑に行うため、「看護基本技術Ⅴ（看護過程）」の配当年次を「2後」から「2前」に変更。
・学修効果を高めるため、「看護基本技術Ⅴ（看護過程）」の配置に兼任1名を追加し、「兼任0」から「兼任1」に変更。
・教授として着任予定の専任教員1名が辞退したため、「成人看護学概論」の配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
・補正申請時の教員審査で不可だった専任教員に代わり、別の職位の専任教員が担当するため、「高齢者看護学実習Ⅰ」の配置を「准教授2」から「准教授1」に変更。また、学修効果を高めるため、教授1名、助教1名を追加し「教授2」「助教1」から「教授3」「助教2」に変更。
・学生の学びを円滑に行うため、「公衆衛生看護学概論」の配当年次を「2後」から「2前」に変更。
・教授として着任予定の専任教員1名が辞退したため、「国際看護学」の配置を「教授7」から「教授6」「兼任1」に変更。
・教授として着任予定の専任教員1名が辞退したため、「スタディスキルセミナー」の配置を「教授9」から「教授8」「兼任1」に変更。
・新たに採用した専任教員がAC教員審査で「可」の判定をもらったことから、「看護学研究Ⅰ」の配置を「助教5」から「助教6」に変更。
・教授として着任予定の専任教員1名が辞退したため、「看護学研究Ⅱ」の配置を「教授9」から「教授8」「兼任1」に変更。また新たに採用した専任教員がAC教員審査で「可」の判定をもらったことから、「助教5」から「助教6」に変更。

【令和4年度】 新

- ・学生の学びを円滑に行うため「看護倫理」の配置年次を「1前」から「1後」に変更
- ・学生の学びを円滑に行うため「医療統計学」の配置年次を「2後」から「2前」に変更
- ・学生の学びを円滑に行うため「栄養学」の配置年次を「2後」から「1前」に変更
- ・学生の学びを円滑に行うため「臨床医学論Ⅰ」の配置年次を「2後」から「2前」に変更
- ・学修効果を高めるため「救急医療概論」「ターミナルケア論」の配置年次を「3前」から「4前」に変更
- ・学生の学びを円滑に行うため「公衆衛生学」の配置年次を「3前」から「2前」に変更
- ・学修効果を高めるため「看護援助技術Ⅲ」の配置年次を「1後」から「2後」に変更
- ・学生の学びを円滑に行うため「成人看護学概論」の配置年次を「2後」から「1後」に変更
- ・学生の学びを円滑に行うため「成人看護援助論Ⅰ」の配置年次を「3前」から「2前」に変更
- ・学生の学びを円滑に行うため「高齢者看護学概論」の配置年次を「2後」から「2前」に変更
- ・学生の学びを円滑に行うため「小児看護学概論」「公衆衛生看護学概論」の配置年次を「2前」から「2後」に変更
- ・学生の学びを円滑に行うため「家族看護論」の配置年次を「3前」から「2前」に変更
- ・学修効果を高めるため「国際看護学」の配置年次を「2後」から「4後」に変更
- ・学修効果を高めるため「がん看護学」の配置年次を「3前」から「4前」に変更
- ・学生の学びを円滑に行うため「看護学研究Ⅰ」の配置年次を「1通年」から「2後」に変更
- ・学修効果を高めるため「看護学研究Ⅱ」の配置年次を「2後」から「3前」に変更
- ・学生の学びを円滑に行うため「公衆衛生看護活動展開論Ⅰ」「公衆衛生看護援助方法論」「公衆衛生看護管理論」の配置年次を「4前」から「3後」に変更
- ・学修効果を高めるため「助産診断・技術学Ⅱ」「助産診断・技術学Ⅲ」の配置年次を「3後」から「4前」に変更
- ・学修効果を高めるため「周産期健康教育論」の配置年次を「3後」から「4前」に変更
- ・学生の学びを円滑に行うため「助産管理」の配置年次を「4前」から「4後」に変更
- ・専任教員がAC教員審査で「可」の判定をもらったことから医療統計学の配置を「兼任1」から「教授1」「准教授1」に変更
- ・専任教員がAC教員審査で「可」の判定をもらったことから公衆衛生看護学概論、家族看護論、健康政策論に各々「准教授1」を追加
- ・新たに採用した専任教員がAC審査で「可」の判定をもらったことから母性看護援助論Ⅱの配置を「教授1」から「教授2」へ看護学研究Ⅱの配置を「教授8」から「教授9」へスタディスキルセミナーの配置を「教授8」から「教授9」へ変更
- ・新たに採用した専任教員がAC審査で「可」の判定をもらったことから地域保健に「助教1」を追加
- ・専任教員の退職により看護学概論の配置を「助教3」から「助教2」に、看護援助技術Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの配置を「助教3」から「助教2」へ看護援助技術Ⅴの配置を「助教7」から「助教6」へ基礎看護学実習Ⅰの配置を「助教7」から「助教6」へ変更、同じ専任教員の退職により看護学研究Ⅰの配置「講師7」「助教6」から「講師6」「助教5」へ基礎看護学実習Ⅰ・基礎看護学実習Ⅱを「講師9」「助教7」を「講師8」「助教6」へ変更・兼任教員が担当できなくなったため、「生命・医療倫理学」の配置を「兼任1」から「兼任4」に変更
- ・兼任教員担当部分を変更したため、「生化学」の配置を「兼任4」から「兼任1」に変更
- ・専任教授がAC審査教員審査で「可」の判定をもらったことから成人看護学概論を「兼任1」から「教授1」に変更

【令和4年度】 旧

- ・学修の学びを円滑に行うため「公衆衛生看護活動展開論Ⅰ」の配置年次を「4前」から「3後」に変更
- ・学修の学びを円滑に行うため「公衆衛生看護援助方法論」の配置年次を「4前」から「3後」に変更
- ・学修の学びを円滑に行うため「公衆衛生看護管理論」の配置年次を「4前」から「3後」に変更

授業科目名の変更、新規科目の追加などを箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。

- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
- ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
68 科目	39 科目	2 科目	109 科目	68 科目 [0]	37 科目 [△2]	2 科目 [0]	107 科目 [△2]	旧カリキュラムも左記と同様

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{109} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考				
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	17,474 m ²	0 m ²	0 m ²	17,474 m ²					
	運動場用地	35,354 m ²	0 m ²	0 m ²	35,354 m ²					
	小 計	52,828 m ²	0 m ²	0 m ²	52,828 m ²					
	そ の 他	3,383 2,372 m ²	0 m ²	0 m ²	3,383 2,372 m ²	701m ² を運用財産へ用途変更し、 310m ² を職員駐車場を使用者を限定 しない駐車場として利用するた め、運用財産へ用途変更し、変更 が生じた。(4)				
	合 計	56,211 55,200 m ²	0 m ²	0 m ²	56,211 55,200 m ²					
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	学校法人都築学園福岡第一高等学 校と共用。 高校の建物の一部を追加で使用する ことになったため変更が生じた。 (2) 端数処理を見直したため修正した。 (3)					
	21,924 22,122 22,123m ²	509 m ²	0 m ²	22,433 22,631 22,632m ²						
	(21,924 22,122 22,123m ²)	(509 m ²)	(0 m ²)	(22,433 22,631 22,632m ²)						
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	講義室、実験実習室を含め、他学部と合同で 使用するため、大学全 体の数を計上				
	28 室	1 室	14 室	4 室 (補助職員 1 人)	0 室 (補助職員 0 人)					
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数						
	看護学部 看護学科			23 室						
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	廃刊や取り扱いの中止 などにより入手不可と なったものを、同等品 などで変更したこと により数値に変更が生 じた。(2)		
	看護学部	4,960 5,094 [260] (4,960 5,094 [260])	71 72 [11] (71 72 [11])	20 [－] (20 [－])	188 189 (188 189)	3,210 4,644 (3,210 4,638)	41 16 (41 16)			
	計	4,960 5,094 [260] (4,960 5,094 [260])	71 72 [11] (71 72 [11])	20 [－] (20 [－])	188 189 (188 189)	3,210 4,644 (3,210 4,638)	41 16 (41 16)			
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		図書館の閲覧座席数を 増やしたため修正し た。(3)			
	1,233 m ²		280 285		105,722					
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要							
	2,808 m ²		－							
(8) 経費の見積り及び 維持方法の概要	経費の 見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	廃刊や取り扱いの中止 などにより入手不可と なったものを、同等品 などで変更したこと により数値に変更が生 じた。(2) 図書購入費の完成年 度の金額に誤りがあ ったため修正した。 (3)	
		教員 1 人当り研究費等	400千円	400千円	図書購入費	28,318千円 28,840千円	0千円	337千円 3,370千円		
		共 同 研 究 費 等	0千円	0千円	設備購入費	223,586千円 237,053千円	0千円	0千円		
	学生 1 人当 り 納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次			
		1,700千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	－ 千円	－ 千円			
	学生納付金以外の維持方法の概要		資産運用							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(4)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	第 一 薬 科 大 学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和4年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
薬学部	-	183	-	1,048	-	0.86	0.75	-	昭和35	-	
薬学科	6	113	-	678	学士 (薬学)	1.00	0.95	-	平成18	福岡県福岡市南 区玉川町22-1	
漢方薬学科	6	40	-	340	学士 (薬学)	0.64	0.57	-	平成28	同上	
薬科学科	4	30	-	30	学士 (薬科学)	0.23	0.23	-	令和4	同上	
看護学部	-	80	-	240	-	1.00	1.05	-	令和2	-	
看護学科	4	80	-	240	学士 (看護学)	1.00	1.05	-	令和2	福岡県福岡市南 区玉川町22-1	
大学院	-	2	-	4	-	0.50	0.50	-	令和3	-	
薬学研究科薬学専攻	4	2	-	4	博士 (薬学)	0.50	0.50	-	令和3	福岡県福岡市南 区玉川町22-1	
大学全体	-	265	-	1,292	-	-	-	-	-	-	

令和4年
定員変更 (△20)

大 学 の 名 称	日 本 薬 科 大 学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	2	備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又は 称号	平均入学 定員 超過率	令和4年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
薬学部	-	360	-	1,940	-	0.88	0.70	-	平成16	-	
薬学科	6	240	-	1,520	学士 (薬学)	0.87	0.69	-	平成23	埼玉県北足立郡伊奈町小室10281	令和3年 定員変更 (△20)
医療ビジネス薬科学科	4	120	-	420	学士 (医療ビジネス薬科学)	0.87	0.71	-	平成23	東京都文京区湯島3-15-9	令和3年 定員変更 (30)
大学院	-	3	-	9	-	1.66	0.66	-	令和2	-	
薬学研究科薬学専攻	4	3	-	9	博士 (薬学)	1.66	0.66	-	令和2	埼玉県北足立郡伊奈町小室10281	
大学全体	-	363	-	1,949	-	-	-	-	-	-	

大学 の 名 称	神 戸 医 療 未 来 大 学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	0	備 考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)	開設年度	所 在 地	
人間社会部	-	400	-	1,600	-	0.65	0.40	-	平成12	-	
未来社会学科	4	120	-	480	学士 (社会福祉学)	0.41	0.20	-	平成25	兵庫県神崎郡福崎町高岡1966-5	令和2年 定員変更 (△50)
健康スポーツコミュニケーション学科	4	180	-	720	学士 (健康福祉学)	0.67	0.44	-	平成23	同上	令和2年 定員変更 (50) 令和3年度 入学定員増 (30)
経営データ・ビジネス学科	4	100	-	400	学士 (社会福祉学)	0.93	0.56	-	平成23	大阪府大阪市天王寺区島が辻2-1-3	令和3年 定員変更 (△30)
大学全体	-	400	-	1,600	-	-	-	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
- ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
- ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
- ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

(1) 一① 担当教員表

23

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専 助教		尾田 登志子 ＜令和2年4月＞ 修士（看護学）												
		看護学概論※ 看護援助技術Ⅰ（看護基本技術）※ 看護援助技術Ⅱ（日常生活の援助技術）※ 看護援助技術Ⅲ（診断・治療に伴う援助技術）※ 看護援助技術Ⅳ（フィジカルアセスメント）※ 看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※												
専 助教		井上 由美子 ＜令和2年4月＞ 修士（看護学）												
		看護学概論※ 看護援助技術Ⅰ（看護基本技術）※ 看護援助技術Ⅱ（日常生活の援助技術）※ 看護援助技術Ⅲ（診断・治療に伴う援助技術）※ 看護援助技術Ⅳ（フィジカルアセスメント）※ 看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護援助論Ⅰ※ 成人看護援助論Ⅱ※ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー												
専 助教		野田 優子 ＜令和3年4月＞ 看護専門学校卒												
		看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 小児看護援助論※ 小児看護学実習 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※												
専 助教		日高 朱里 ＜令和3年4月＞ 修士（看護学）												
		看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 母性看護援助論Ⅰ※ 母性看護援助論Ⅱ※ 母性看護学実習 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※ 助産診断・技術学Ⅰ（妊娠・分娩）※ 助産診断・技術学Ⅲ（分娩介助法）※ 助産診断・技術学Ⅳ（産褥期・新生児期・乳幼児期）※ 周産期健康教育論※ 助産学実習												
専 助教		栗原 はるか ＜令和3年4月＞ 修士（看護学）												
		看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 精神看護援助論※ 精神看護学実習 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※												
専 助教		西田 志穂 ＜令和3年4月＞ 修士（教育学）												
		看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 在宅看護援助論※ 在宅看護論実習 統合実習 スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー												

28

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名
		＜就任（予定）年月＞ 保有学位等			＜就任（予定）年月＞ 保有学位等			＜就任（予定）年月＞ 保有学位等			＜就任（予定）年月＞ 保有学位等			＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
								篠崎 克子 ＜令和4年4月＞ 博士（看護学） 母性看護援助助論Ⅰ 母性看護援助助論Ⅱ 母性看護学実習 統合演習 国際看護学 チーム医療 総合看護学演習 スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ 看護学研究Ⅱ 看護学研究Ⅲ 基礎助産学 助産診断・技術学Ⅰ 助産診断・技術学Ⅱ 助産診断・技術学Ⅲ 助産診断・技術学Ⅳ 周産期健康教育学論 助産学実習			篠崎 克子 ＜令和4年4月＞ 博士（看護学） 母性看護援助助論Ⅰ 母性看護援助助論Ⅱ 母性看護学実習 統合演習 国際看護学 チーム医療 総合看護学演習 スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ 看護学研究Ⅱ 看護学研究Ⅲ 基礎助産学 助産診断・技術学Ⅰ 助産診断・技術学Ⅱ 助産診断・技術学Ⅲ 助産診断・技術学Ⅳ 周産期健康教育学論 助産学実習			篠崎 克子 ＜令和4年4月＞ 博士（看護学） 母性看護援助助論Ⅰ 母性看護援助助論Ⅱ 母性看護学実習 統合演習 国際看護学 チーム医療 総合看護学演習 スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ 看護学研究Ⅱ 看護学研究Ⅲ 基礎助産学 助産診断・技術学Ⅰ 助産診断・技術学Ⅱ 助産診断・技術学Ⅲ 助産診断・技術学Ⅳ 周産期健康教育学論 助産学実習
								名村 駿佑 ＜令和4年4月＞ 学士（看護学） 地域保健 基礎看護実習Ⅰ 基礎看護実習Ⅱ 統合実習 チーム医療 総合看護学演習 スタディスキルセミナー 公衆衛生看護援助方法論 公衆衛生看護学実習 公衆衛生看護活動展開助論Ⅰ 医療統計学			名村 駿佑 ＜令和4年4月＞ 学士（看護学） 地域保健 基礎看護実習Ⅰ 基礎看護実習Ⅱ 統合実習 チーム医療 総合看護学演習 スタディスキルセミナー 公衆衛生看護援助方法論 公衆衛生看護学実習 公衆衛生看護活動展開助論Ⅰ 医療統計学			名村 駿佑 ＜令和4年4月＞ 学士（看護学） 地域保健 基礎看護実習Ⅰ 基礎看護実習Ⅱ 統合実習 チーム医療 総合看護学演習 スタディスキルセミナー 公衆衛生看護援助方法論 公衆衛生看護学実習 公衆衛生看護活動展開助論Ⅰ 医療統計学
兼任	教授	櫻田 司 ＜令和2年4月＞ 薬学博士 薬学への招待※ 形態機能学Ⅱ	兼任	教授	櫻田 司 ＜令和2年4月＞ 薬学博士 薬学への招待※									
兼任	教授	戸田 品久 ＜令和2年4月＞ 博士（薬学） 薬学への招待※ 栄養学※	兼任	教授	戸田 品久 ＜令和2年4月＞ 博士（薬学） 薬学への招待※ 栄養学※									
兼任	教授	門口 泰也 ＜令和2年4月＞ 博士（薬学） 看護学生のための生物・化学※	兼任	教授	門口 泰也 ＜令和2年4月＞ 博士（薬学） 看護学生のための生物・化学※	兼任	教授	門口 泰也 ＜令和2年4月＞ 博士（薬学） 看護学生のための生物・化学※	兼任	教授	門口 泰也 ＜令和2年4月＞ 博士（薬学） 看護学生のための生物・化学※	兼任	教授	門口 泰也 ＜令和2年4月＞ 博士（薬学） 看護学生のための生物・化学※
兼任	教授	三嶋 基弘 ＜令和2年4月＞ 薬学博士 薬学への招待※	兼任	教授	三嶋 基弘 ＜令和2年4月＞ 薬学博士 薬学への招待※									
兼任	教授	池谷 幸信 ＜令和2年4月＞ 薬学博士 薬学への招待※	兼任	教授	池谷 幸信 ＜令和2年4月＞ 薬学博士 薬学への招待※	兼任	教授	池谷 幸信 ＜令和2年4月＞ 薬学博士 薬学への招待※						
兼任	教授	窪田 敏夫 ＜令和3年9月＞ 博士（薬学） 医療統計学※ 疫学 チーム医療※ 総合看護学演習※	兼任	教授	窪田 敏夫 ＜令和3年9月＞ 博士（薬学） 医療統計学※ 疫学 チーム医療※ 総合看護学演習※	兼任	教授	窪田 敏夫 ＜令和3年9月＞ 博士（薬学） チーム医療※ 総合看護学演習※	兼任	教授	窪田 敏夫 ＜令和3年9月＞ 博士（薬学） チーム医療※ 総合看護学演習※ 生命・医療倫理学	兼任	教授	窪田 敏夫 ＜令和3年9月＞ 博士（薬学） チーム医療※ 総合看護学演習※ 生命・医療倫理学
兼任	教授	長田 茂宏 ＜令和2年9月＞ 博士（薬学） 生化学※	兼任	教授	長田 茂宏 ＜令和2年9月＞ 博士（薬学） 生化学※									
兼任	教授	森内 宏志 ＜令和2年4月＞ 薬学博士 英語 英会話 医療英語												
兼任	教授	小山 進 ＜令和3年4月＞ 博士（薬学） 病理学 救急医療概論	兼任	教授	小山 進 ＜令和3年4月＞ 博士（薬学） 病理学 救急医療概論	兼任	教授	小山 進 ＜令和3年4月＞ 博士（薬学） 病理学 救急医療概論	兼任	教授	小山 進 ＜令和3年4月＞ 博士（薬学） 病理学 救急医療概論	兼任	教授	小山 進 ＜令和3年4月＞ 博士（薬学） 病理学 救急医療概論
兼任	教授	松原 大 ＜令和3年4月＞ 博士（医学） 微生物学※	兼任	教授	松原 大 ＜令和3年4月＞ 博士（医学） 微生物学※	兼任	教授	松原 大 ＜令和3年4月＞ 博士（医学） 微生物学※	兼任	教授	松原 大 ＜令和3年4月＞ 博士（医学） 微生物学※	兼任	教授	松原 大 ＜令和3年4月＞ 博士（医学） 微生物学※

30

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名
		＜就任（予定）年月＞保有学位等	＜就任（予定）年月＞保有学位等		＜就任（予定）年月＞保有学位等	＜就任（予定）年月＞保有学位等		＜就任（予定）年月＞保有学位等	＜就任（予定）年月＞保有学位等					
		担当授業科目名	担当授業科目名		担当授業科目名	担当授業科目名		担当授業科目名	担当授業科目名					
兼任	講師	小武家 優子 ＜令和4年4月＞博士（医学）	兼任	講師	小武家 優子 ＜令和4年4月＞博士（医学）	兼任	准教授	小武家 優子 ＜令和4年4月＞博士（医学）	兼任	准教授	小武家 優子 ＜令和4年4月＞博士（医学）	兼任	准教授	小武家 優子 ＜令和4年4月＞博士（医学）
		公衆衛生学※			公衆衛生学※			公衆衛生学※			公衆衛生学※			公衆衛生学※
兼任	講師	藤井 由希子 ＜令和4年4月＞博士（社会健康医学）	兼任	講師	藤井 由希子 ＜令和4年4月＞博士（社会健康医学）	兼任	准教授	藤井 由希子 ＜令和4年4月＞博士（社会健康医学）	兼任	准教授	藤井 由希子 ＜令和4年4月＞博士（社会健康医学）	兼任	准教授	藤井 由希子 ＜令和4年4月＞博士（社会健康医学）
		健康管理学※			健康管理学※			健康管理学※			健康管理学※			健康管理学※
兼任	講師	跡部 秀之 ＜令和2年4月＞理学士	兼任	講師	跡部 秀之 ＜令和2年4月＞理学士	兼任	講師	跡部 秀之 ＜令和2年4月＞理学士	兼任	講師	跡部 秀之 ＜令和2年4月＞理学士	兼任	講師	跡部 秀之 ＜令和2年4月＞理学士
		看護学生のための生物・化学※			看護学生のための生物・化学※			看護学生のための生物・化学※			看護学生のための生物・化学※			看護学生のための生物・化学※
兼任	助教	井上 寛 ＜令和2年4月＞博士（数理学）	兼任	助教	井上 寛 ＜令和2年4月＞博士（数理学）	兼任			兼任			兼任		
		看護学生のための数学・物理※医療統計学※			看護学生のための数学・物理※医療統計学※									
兼任	助教	岡崎 裕之 ＜令和2年9月＞博士（薬学）	兼任	助教	岡崎 裕之 ＜令和2年9月＞博士（薬学）	兼任			兼任			兼任		
		生化学※			生化学※			生化学※			生化学※			
兼任	助教	古賀 貴之 ＜令和3年9月＞博士（薬学）	兼任	助教	古賀 貴之 ＜令和3年9月＞博士（薬学）	兼任	講師	古賀 貴之 ＜令和3年9月＞博士（薬学）	兼任	講師	古賀 貴之 ＜令和3年9月＞博士（薬学）	兼任	講師	古賀 貴之 ＜令和3年9月＞博士（薬学）
		栄養学※			栄養学※			栄養学※			栄養学※			栄養学※
兼任	助教	瀧村 賢吾 ＜令和3年4月＞博士（薬学）	兼任	助教	瀧村 賢吾 ＜令和3年4月＞博士（薬学）	兼任	講師	瀧村 賢吾 ＜令和3年4月＞博士（薬学）	兼任	講師	瀧村 賢吾 ＜令和3年4月＞博士（薬学）	兼任	講師	瀧村 賢吾 ＜令和3年4月＞博士（薬学）
		薬理学※			薬理学※			薬理学※臨床薬理学※			薬理学※臨床薬理学※			薬理学※臨床薬理学※
			兼任	教授	飯口 奈穂美 ＜令和2年4月＞博士（臨床薬学）	兼任	教授	飯口 奈穂美 ＜令和2年4月＞博士（臨床薬学）	兼任	教授	飯口 奈穂美 ＜令和2年4月＞博士（臨床薬学）	兼任	教授	飯口 奈穂美 ＜令和2年4月＞博士（臨床薬学）
		薬学への招待※			薬学への招待※			薬学への招待※生命・医療倫理学						
			兼任	准教授	高村 雄策 ＜令和2年9月＞博士（医学）	兼任	准教授	高村 雄策 ＜令和2年9月＞博士（医学）	兼任	准教授	高村 雄策 ＜令和2年9月＞博士（医学）	兼任	准教授	高村 雄策 ＜令和2年9月＞博士（医学）
		形體機能学Ⅱ			形體機能学Ⅱ			形體機能学Ⅱ						
			兼任	准教授	久保山 友晴 ＜令和2年9月＞博士（薬学）	兼任	准教授	久保山 友晴 ＜令和2年9月＞博士（薬学）	兼任	准教授	久保山 友晴 ＜令和2年9月＞博士（薬学）	兼任	准教授	久保山 友晴 ＜令和2年9月＞博士（薬学）
		漢方・民間薬概論			漢方・民間薬概論			漢方・民間薬概論						
			兼任	教授	炬谷 眞理子 ＜令和3年9月＞博士（医学）	兼任			兼任			兼任		
		生化学※			生化学※									
			兼任	教授	有馬 英俊 ＜令和3年4月＞博士（薬学）	兼任	教授	有馬 英俊 ＜令和3年4月＞博士（薬学）	兼任	教授	有馬 英俊 ＜令和3年4月＞博士（薬学）	兼任	教授	有馬 英俊 ＜令和3年4月＞博士（薬学）
		薬学への招待※			薬学への招待※			薬学への招待※						
			兼任			兼任	教授	首藤 英樹 ＜令和4年4月＞博士（薬学）	兼任	教授	首藤 英樹 ＜令和4年4月＞博士（薬学）	兼任	教授	首藤 英樹 ＜令和4年4月＞博士（薬学）
		生命・医療倫理学			生命・医療倫理学			生命・医療倫理学						
			兼任	准教授	大光 正男 ＜令和3年4月＞博士（薬学）	兼任	教授	大光 正男 ＜令和3年4月＞博士（薬学）	兼任	教授	大光 正男 ＜令和3年4月＞博士（薬学）	兼任	教授	大光 正男 ＜令和3年4月＞博士（薬学）
		薬学への招待※			薬学への招待※			薬学への招待※生命・医療倫理学						
			兼任	講師	香月 正明 ＜令和3年4月＞博士（薬学）	兼任	准教授	香月 正明 ＜令和3年4月＞博士（薬学）	兼任	准教授	香月 正明 ＜令和3年4月＞博士（薬学）	兼任	准教授	香月 正明 ＜令和3年4月＞博士（薬学）
		薬学への招待※			薬学への招待※			薬学への招待※						

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	藤元 慎太郎 ＜令和2年4月＞ 修士（文学）												
		心理学												
兼任	講師	深山 孝文 ＜令和2年4月＞ 文学士	兼任	講師	深山 孝文 ＜令和2年4月＞ 文学士									
		文章表現論			文章表現論									
兼任	講師	渡部 和隆 ＜令和2年4月＞ 博士（文学）	兼任	講師	渡部 和隆 ＜令和2年4月＞ 博士（文学）									
		倫理学 哲学Ⅰ 哲学Ⅱ			倫理学 哲学Ⅰ 哲学Ⅱ									
兼任	講師	井上 久美子 ＜令和2年9月＞ 教育学士	兼任	講師	井上 久美子 ＜令和2年9月＞ 教育学士									
		生命・医療倫理学			生命・医療倫理学									
兼任	講師	吉川 三恵子 ＜令和2年4月＞ 修士（教育学）	兼任	講師	吉川 三恵子 ＜令和2年4月＞ 修士（教育学）									
		文学Ⅰ 文学Ⅱ			文学Ⅰ 文学Ⅱ									
兼任	講師	荒木 登茂子 ＜令和3年4月＞ 文学修士	兼任	講師	荒木 登茂子 ＜令和3年4月＞ 文学修士									
		医療コミュニケーション学			医療コミュニケーション学									
兼任	講師	市東 亘 ＜令和2年4月＞ 博士（経済学）	兼任	講師	市東 亘 ＜令和2年4月＞ 博士（経済学）									
		経済学Ⅰ 経済学Ⅱ			経済学Ⅰ 経済学Ⅱ									
兼任	講師	藤岡 豊三雄 ＜令和2年4月＞ 工学修士	兼任	講師	藤岡 豊三雄 ＜令和2年4月＞ 工学修士									
		情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ			情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ									
兼任	講師	任 春江 ＜令和2年4月＞ 応用言語学修士	兼任	講師	任 春江 ＜令和2年4月＞ 応用言語学修士									
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ			中国語Ⅰ 中国語Ⅱ									
兼任	講師	田中 真理 ＜令和2年4月＞ 修士（文学）	兼任	講師	田中 真理 ＜令和2年4月＞ 修士（文学）									
		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ			フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ									
兼任	講師	二ノ坂 保喜 ＜令和4年4月＞ 医学士	兼任	講師	二ノ坂 保喜 ＜令和4年4月＞ 医学士									
		ターミナルケア論（エンドオブライフケア論）			ターミナルケア論（エンドオブライフケア論）									
兼任	講師	三原 健吾 ＜令和3年4月＞ 修士（臨床心理学）	兼任	講師	三原 健吾 ＜令和3年4月＞ 修士（臨床心理学）									
		臨床心理学			臨床心理学									

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名
		<就任（予定）年月> 保有学位等			<就任（予定）年月> 保有学位等			<就任（予定）年月> 保有学位等			<就任（予定）年月> 保有学位等			<就任（予定）年月> 保有学位等			<就任（予定）年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	長谷川 伸子 <令和2年9月> 経済学修士	兼任	講師	長谷川 伸子 <令和2年9月> 経済学修士	兼任	教授	長谷川 伸子 <令和2年9月> 経済学修士	兼任	教授	長谷川 伸子 <令和2年9月> 経済学修士	兼任	教授	長谷川 伸子 <令和2年9月> 経済学修士	兼任	教授	長谷川 伸子 <令和2年9月> 経済学修士
		ジェンダー論			ジェンダー論			ジェンダー論			ジェンダー論			ジェンダー論			ジェンダー論
兼任	講師	國府 新助 <令和2年9月> 法学修士	兼任	講師	國府 新助 <令和2年9月> 法学修士	兼任	講師		兼任	講師		兼任	講師		兼任	講師	
		日本国憲法			日本国憲法												
兼任	講師	蘭 和真 <令和2年4月> 博士（医学）	兼任	講師	蘭 和真 <令和2年4月> 博士（医学）	兼任	教授	蘭 和真 <令和2年4月> 博士（医学）	兼任	教授	蘭 和真 <令和2年4月> 博士（医学）	兼任	教授	蘭 和真 <令和2年4月> 博士（医学）	兼任	教授	蘭 和真 <令和2年4月> 博士（医学）
		スポーツⅠ			スポーツⅠ スポーツⅡ			スポーツⅠ スポーツⅡ			スポーツⅠ スポーツⅡ			スポーツⅠ スポーツⅡ			スポーツⅠ スポーツⅡ
兼任	講師	瀧 豊樹 <令和2年9月> 教育学修士	兼任	講師		兼任	講師		兼任	講師		兼任	講師		兼任	講師	
		スポーツⅡ															
兼任	講師	朴 先知 <令和2年4月> 修士（学術）	兼任	講師		兼任	講師		兼任	講師		兼任	講師		兼任	講師	
		韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ															
兼任	講師	寺坂 禮治 <令和3年9月> 医学博士	兼任	講師	寺坂 禮治 <令和3年9月> 医学博士	兼任	教授	寺坂 禮治 <令和3年9月> 医学博士	兼任	教授	寺坂 禮治 <令和3年9月> 医学博士	兼任	教授	寺坂 禮治 <令和3年9月> 医学博士	兼任	教授	寺坂 禮治 <令和3年9月> 医学博士
		臨床医学論Ⅰ（成人・高齢者）※			臨床医学論Ⅰ（成人・高齢者）※			臨床医学論Ⅰ（成人・高齢者）※			臨床医学論Ⅰ（成人・高齢者）※			臨床医学論Ⅰ（成人・高齢者）※			臨床医学論Ⅰ（成人・高齢者）※
兼任	講師	河谷 はるみ <令和2年4月> 博士（アドミニストレーション）	兼任	講師	河谷 はるみ <令和2年4月> 博士（アドミニストレーション）	兼任	准教授	河谷 はるみ <令和2年4月> 博士（アドミニストレーション）	兼任	准教授	河谷 はるみ <令和2年4月> 博士（アドミニストレーション）	兼任	准教授	河谷 はるみ <令和2年4月> 博士（アドミニストレーション）	兼任	准教授	河谷 はるみ <令和2年4月> 博士（アドミニストレーション）
		地域包括ケアシステム論※			地域包括ケアシステム論※			地域包括ケアシステム論※			地域包括ケアシステム論※			地域包括ケアシステム論※			地域包括ケアシステム論※
兼任	講師	永吉 守 <令和3年4月> 博士（国際文化）	兼任	講師	永吉 守 <令和3年4月> 博士（国際文化）	兼任	講師	永吉 守 <令和3年4月> 博士（国際文化）	兼任	講師	永吉 守 <令和3年4月> 博士（国際文化）	兼任	講師	永吉 守 <令和3年4月> 博士（国際文化）	兼任	講師	永吉 守 <令和3年4月> 博士（国際文化）
		家族社会学			家族社会学			家族社会学			家族社会学			家族社会学			家族社会学
兼任	講師	福岡 恒太郎 <令和4年9月> 博士（医学）	兼任	講師	福岡 恒太郎 <令和4年9月> 博士（医学）	兼任	教授	福岡 恒太郎 <令和4年9月> 博士（医学）	兼任	教授	福岡 恒太郎 <令和4年9月> 博士（医学）	兼任	教授	福岡 恒太郎 <令和4年9月> 博士（医学）	兼任	教授	福岡 恒太郎 <令和4年9月> 博士（医学）
		助産診断・技術学Ⅱ（産科手術・救急助産）※			助産診断・技術学Ⅱ（産科手術・救急助産）※			助産診断・技術学Ⅱ（産科手術・救急助産）※			助産診断・技術学Ⅱ（産科手術・救急助産）※			助産診断・技術学Ⅱ（産科手術・救急助産）※			助産診断・技術学Ⅱ（産科手術・救急助産）※
兼任	講師	日高 庸博 <令和3年9月> 博士（医学）	兼任	講師	日高 庸博 <令和3年9月> 博士（医学）	兼任	講師		兼任	講師		兼任	講師		兼任	講師	
		臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）※			臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）※												
兼任	講師	矢幡 秀昭 <令和3年9月> 博士（医学）	兼任	講師	矢幡 秀昭 <令和3年9月> 博士（医学）	兼任	准教授	矢幡 秀昭 <令和3年9月> 博士（医学）	兼任	准教授	矢幡 秀昭 <令和3年9月> 博士（医学）	兼任	准教授	矢幡 秀昭 <令和3年9月> 博士（医学）	兼任	准教授	矢幡 秀昭 <令和3年9月> 博士（医学）
		臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）※			臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）※			臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）※			臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）※			臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）※			臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）※
兼任	講師	加藤 聖子 <令和3年9月> 医学博士	兼任	講師	加藤 聖子 <令和3年9月> 医学博士	兼任	教授	加藤 聖子 <令和3年9月> 医学博士	兼任	教授	加藤 聖子 <令和3年9月> 医学博士	兼任	教授	加藤 聖子 <令和3年9月> 医学博士	兼任	教授	加藤 聖子 <令和3年9月> 医学博士
		臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）※			臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）※			臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）※			臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）※			臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）※			臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）※
兼任	講師	立石 和子 <令和2年4月> 博士（医学）	兼任	講師	立石 和子 <令和2年4月> 博士（医学）	兼任	講師		兼任	講師		兼任	講師		兼任	講師	
		看護倫理※			看護倫理※												
兼任	講師	中尾 久子 <令和2年4月> 博士（医学）	兼任	講師	中尾 久子 <令和2年4月> 博士（医学）	兼任	講師		兼任	講師		兼任	講師		兼任	講師	
		看護倫理※			看護倫理※												
兼任	講師	濱田 裕子 <令和2年4月> 博士（看護学）	兼任	講師	濱田 裕子 <令和2年4月> 博士（看護学）	兼任	講師		兼任	講師		兼任	講師		兼任	講師	
		看護倫理※			看護倫理※												

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	宮崎 初 ＜令和2年4月＞ 修士（看護学）	兼任	講師	宮崎 初 ＜令和2年4月＞ 修士（看護学）									
		メンタルヘルス論※			メンタルヘルス論※									
			兼任	講師	谷口 雄紀 ＜令和2年4月＞ 修士（心理学）	兼任	講師	谷口 雄紀 ＜令和2年4月＞ 修士（心理学）						
					心理学			心理学						
			兼任	講師	井田 茂雄 ＜令和2年4月＞ 修士（学術）	兼任	講師	井田 茂雄 ＜令和2年4月＞ 修士（学術）	兼任	講師	井田 茂雄 ＜令和2年4月＞ 修士（学術）	兼任	講師	井田 茂雄 ＜令和2年4月＞ 修士（学術）
					韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ			韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ			韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ			韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ
			兼任	講師	Suzy Connor ＜令和2年4月＞ 博士（健康科学）									
					英語 英会話 医療英語									
			兼任	講師	岡本 靖子 ＜令和2年4月＞ 看護専門学校卒									
					看護学概論※ 看護援助技術Ⅰ（看護基本技術）※ 看護援助技術Ⅱ（日常生活の援助技術）※ 看護援助技術Ⅲ（診断・治療に伴う援助技術）※ スタディスキルセミナー 看護学研究Ⅰ※									
			兼任	教授	藤 敏晴 ＜令和3年4月＞ 文学修士	兼任	教授	藤 敏晴 ＜令和3年4月＞ 文学修士	兼任	教授	藤 敏晴 ＜令和3年4月＞ 文学修士	兼任	教授	藤 敏晴 ＜令和3年4月＞ 文学修士
					文章表現論			文章表現論			文章表現論			文章表現論
			兼任	教授	都築 克幸 ＜令和3年9月＞ 博士（医学）	兼任	教授	都築 克幸 ＜令和3年9月＞ 博士（医学）	兼任	教授	都築 克幸 ＜令和3年9月＞ 博士（医学）	兼任	教授	都築 克幸 ＜令和3年9月＞ 博士（医学）
					臨床医学論Ⅰ（成人・高齢者）※			臨床医学論Ⅰ（成人・高齢者）※			臨床医学論Ⅰ（成人・高齢者）※			臨床医学論Ⅰ（成人・高齢者）※
			兼任	教授	矢野 茂敏 ＜令和3年9月＞ 博士（医学）	兼任	教授	矢野 茂敏 ＜令和3年9月＞ 博士（医学）	兼任	教授	矢野 茂敏 ＜令和3年9月＞ 博士（医学）	兼任	教授	矢野 茂敏 ＜令和3年9月＞ 博士（医学）
					臨床医学論Ⅰ（成人・高齢者）※			臨床医学論Ⅰ（成人・高齢者）※			臨床医学論Ⅰ（成人・高齢者）※			臨床医学論Ⅰ（成人・高齢者）※
			兼任	教授	山浦 健 ＜令和3年9月＞ 博士（医学）	兼任	教授	山浦 健 ＜令和3年9月＞ 博士（医学）	兼任	教授	山浦 健 ＜令和3年9月＞ 博士（医学）	兼任	教授	山浦 健 ＜令和3年9月＞ 博士（医学）
					臨床医学論Ⅰ（成人・高齢者）※			臨床医学論Ⅰ（成人・高齢者）※			臨床医学論Ⅰ（成人・高齢者）※			臨床医学論Ⅰ（成人・高齢者）※
			兼任	教授	大賀 正一 ＜令和3年9月＞ 博士（医学）	兼任	教授	大賀 正一 ＜令和3年9月＞ 博士（医学）	兼任	教授	大賀 正一 ＜令和3年9月＞ 博士（医学）	兼任	教授	大賀 正一 ＜令和3年9月＞ 博士（医学）
					臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）※			臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）※			臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）※			臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）※
			兼任	教授	中山 秀樹 ＜令和3年9月＞ 博士（医学）	兼任	教授	中山 秀樹 ＜令和3年9月＞ 博士（医学）	兼任	教授	中山 秀樹 ＜令和3年9月＞ 博士（医学）	兼任	教授	中山 秀樹 ＜令和3年9月＞ 博士（医学）
					臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）※			臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）※			臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）※			臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）※
			兼任	教授	本荘 哲 ＜令和3年9月＞ 博士（医学）	兼任	教授	本荘 哲 ＜令和3年9月＞ 博士（医学）	兼任	教授	本荘 哲 ＜令和3年9月＞ 博士（医学）	兼任	教授	本荘 哲 ＜令和3年9月＞ 博士（医学）
					臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）※			臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）※			臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）※			臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）※
			兼任	教授	寺本 成一 ＜令和3年9月＞ 学士（医学）	兼任	教授	寺本 成一 ＜令和3年9月＞ 学士（医学）	兼任	教授	寺本 成一 ＜令和3年9月＞ 学士（医学）	兼任	教授	寺本 成一 ＜令和3年9月＞ 学士（医学）
					臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）※			臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）※			臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）※			臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）※
			兼任	教授	二宮 利治 ＜令和3年9月＞ 博士（医学）	兼任	教授	二宮 利治 ＜令和3年9月＞ 博士（医学）	兼任	教授	二宮 利治 ＜令和3年9月＞ 博士（医学）	兼任	教授	二宮 利治 ＜令和3年9月＞ 博士（医学）
					疫学※			疫学※			疫学※			疫学※

[illegible]

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

荒井教授就任辞退により、安藤教授に変更。令和元年11月AC教員審査済み。
権藤講師の学位取得により、保有学位等を「修士（看護学）」から「博士（看護学）」に変更。
村井講師就任辞退により、兼任教員の岡本講師に変更。令和3年4月からの採用を目指し、専任教員を公募している。
尾田助教就任辞退により、竹井助教に変更。令和2年1月AC教員審査済み。
西田助教就任辞退により、小川助教に変更。令和2年1月AC教員審査済み。
兼任教員の樺田教授の都合により、兼任教員の高村准教授が「形態機能学Ⅱ」を担当。
兼任教員の森内教授就任により、兼任教員のConnor講師に変更。
兼任教員の飯塚教授就任により、兼任教員の久保山准教授に変更。
兼任教員の増田教授就任により、オムニバス講義「看護学生のための生物・化学」の各兼任教員担当講義回を変更。
オムニバス講義「薬学への招待」に兼任教員の俣口教授を追加。
兼任教員Epp准教授の都合により、兼任教員のConnor講師が「英会話」を担当。
兼任教員の藤元講師就任により、兼任教員の谷口講師に変更。
兼任教員の瀬講師就任により、兼任教員の蘭講師が「スポーツⅡ」を担当。
兼任教員の朴講師就任により、兼任教員の井田講師に変更。

【令和3年度】

立石教授就任辞退により、兼任教員の村田教授に変更。令和3年9月からの採用を目指し、AC教員審査を受審し、令和3年5月にAC教員審査「可」となり教授に変更（3）
荒井教授就任辞退により、安藤教授に変更。令和元年11月AC教員審査済み。（2）
権藤講師の学位取得により、保有学位等を「修士（看護学）」から「博士（看護学）」に変更。（2）
村井講師就任辞退により、兼任教員の岡本講師に変更。（2）
尾田助教就任辞退により、竹井助教に変更。令和2年1月AC教員審査済み。（2）
野田助教の学位取得により、保有学位等を「看護専門学校卒」から「修士（看護学）」に変更。（3）
西田助教就任辞退により、小川助教に変更。令和2年1月AC教員審査済み。（2）
兼任教員の岡本講師就任により、兼講師に変更。令和2年7月AC教員審査済み。（3）
兼任教員の樺田教授退職により、兼任教員の小松教授が「薬学への招待」を担当。また兼任教員の高村准教授が「形態機能学Ⅱ」を担当。（3）
兼任教員の戸田教授退職により、兼任教員の有竹教授が「薬学への招待」を担当。また兼任教員の小武家講師が「栄養学」を担当。（3）
兼任教員の三嶋教授退職により、兼任教員の有馬教授が「薬学への招待」を担当。（3）
兼任教員の窪田教授の都合により、兼任教員の大久保講師が「医療統計学」を担当。また、兼任教員の船越講師及び二宮教授が「疫学」を担当。（3）
兼任教員の森内教授就任により、兼任教員のConnor講師が「英語」「英会話」「医療英語」を担当。（2）
兼任教員のConnor講師就任のため、兼任教員の青柳准教授が「英語」「英会話」「医療英語」を担当。（3）
兼任教員の飯塚教授就任により、兼任教員の久保山准教授が「漢方・民間薬概論」を担当。また兼任教員の瀧村講師が「臨床薬理学」を担当。（2）
兼任教員の増田教授就任により、オムニバス講義「看護学生のための生物・化学」の各兼任教員担当講義回を変更。（2）
兼任教員Epp准教授の都合により、兼任教員のConnor講師が「英会話」を担当。（2）
兼任教員のConnor講師就任のため、兼任教員の青柳准教授が「英会話」を担当。（3）
兼任教員の清水講師が昇任したため、准教授に変更。（3）
兼任教員の井上助教退職により、兼任教員の久保講師が「看護学生のための数学・物理」及び「医療統計学」を担当。（3）
兼任教員の岡崎助教が昇任したため、講師に変更。（3）
兼任教員の瀧村助教が昇任したため、講師に変更。（3）
オムニバス講義「薬学への招待」に兼任教員の俣口教授を追加。（2）
オムニバス講義「生化学」に兼任教員の根口教授を追加。（3）
オムニバス講義「薬学への招待」に兼任教員の大光准教授、香月講師を追加。（3）
兼任教員の藤元講師就任により、兼任教員の谷口講師が「心理学」を担当。（2）
兼任教員の深山講師就任のため、兼任教員の数教授が「文章表現論」を担当。（3）
兼任教員の井上講師を准教授に変更。（3）
兼任教員の荒木講師を教授に変更。（3）
兼任教員の市東講師を准教授に変更。（3）
兼任教員の任講師を教授に変更。（3）
兼任教員の田中講師就任。担当科目の履修希望者が少ないため、今年度は開講しない。（3）
兼任教員の二ノ坂講師を教授に変更。（3）
兼任教員の長谷川講師を教授に変更。（3）
兼任教員の國府講師就任により、兼任教員の久保准教授が「日本国憲法」を担当。（3）
兼任教員の蘭講師を教授に変更。（3）
兼任教員の瀬講師就任により、兼任教員の蘭講師が「スポーツⅡ」を担当。（2）
兼任教員の朴講師就任により、兼任教員の井田講師に変更。（2）
兼任教員の寺坂講師を教授に変更。（3）
兼任教員の河谷講師を准教授に変更。（3）
兼任教員の福岡講師を教授に変更。（3）
兼任教員の日高講師就任により、兼任教員の藤田講師がオムニバス講義「臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）」を担当。（3）
兼任教員の矢嶋講師を准教授に変更。（3）
兼任教員の加藤講師を教授に変更。（3）
兼任教員の立石講師就任により、兼任教員の村田教授に変更。（3）
兼任教員の中尾講師が、令和3年4月に専任教員として着任したため変更。（3）
兼任教員の瀧田講師が、令和3年4月に専任教員として着任したため変更。（3）
兼任教員の宮崎講師が、令和3年4月に専任教員として着任したため変更。（3）
オムニバス講義「臨床医学論Ⅰ（成人・高齢者）」に、兼任教員の都築教授、矢野教授、山浦教授を追加。（3）
オムニバス講義「臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）」に、兼任教員の大賀教授、中山教授、本荘教授、寺本教授を追加。（3）

【令和4年度】 新

・川口講師退職により篠崎教授に変更。令和3年12月AC教員審査済み。
・公衆衛生看護学に名村助教を追加。令和3年12月AC教員審査済み。
・兼任教員の荒木教授の辞任により、兼任教員の小川准教授が「医療コミュニケーション学」を担当。
・兼任教員の池谷教授の退職により、兼任教員の小松教授が「薬学への招待」を担当。
・兼任教員の田畠准教授が昇任したため、教授へ変更。
・兼任教員の安川准教授が承認したため、教授へ変更。
・兼任教員の小川准教授が昇任したため、教授へ変更。
・兼任教員の小武家講師が昇任したため、准教授へ変更。
・兼任教員の香月講師が昇任したため、教授へ変更。
・兼任教員の藤井講師が昇任したため、准教授へ変更。
・兼任教員の古賀助教が昇任したため、講師へ変更。
・兼任教員の大光准教授が昇任したため、教授へ変更。
・担当教員の都合により、「生化学」を兼任教員の村山教授が担当。
・兼任教員の渡部講師の退職により、兼任教員の境講師に変更。
・兼任教員の井上講師の退職により、兼任教員の首藤教授、兼任教員の炬口教授、兼任教員の窪田教授、兼任教員の大光教授が担当。
・兼任教員の吉川講師の退職により、兼任教員の小林講師に変更。
・兼任教員の藤岡講師の退職により、兼任教員の田中講師に変更。
・兼任教員の任講師の退職により、兼任教員の王講師に変更。
・兼任教員の二ノ坂講師の退職により、兼任教員の岡崎講師に変更。
・兼任教員の三原講師の退職により、兼任教員の谷講師に変更。
・兼任教員の谷口講師の退職により、兼任教員の谷講師に変更。

【令和4年度】 旧

・川口講師退職により篠崎教授に変更。令和3年12月AC教員審査済み。
・公衆衛生看護学に名村助教を追加。令和3年12月AC教員審査済み。
・兼任教員の荒木教授の辞任により、兼任教員の小川准教授が「医療コミュニケーション学」を担当。
・兼任教員の池谷教授の退職により、兼任教員の小松教授が「薬学への招待」を担当。
・兼任教員の田畠准教授が昇任したため、教授へ変更。
・兼任教員の安川准教授が承認したため、教授へ変更。
・兼任教員の小川准教授が昇任したため、教授へ変更。
・兼任教員の小武家講師が昇任したため、准教授へ変更。
・兼任教員の香月講師が昇任したため、教授へ変更。
・兼任教員の藤井講師が昇任したため、准教授へ変更。
・兼任教員の古賀助教が昇任したため、講師へ変更。
・兼任教員の大光准教授が昇任したため、教授へ変更。
・担当教員の都合により、「生化学」を兼任教員の村山教授が担当。
・兼任教員の渡部講師の退職により、兼任教員の境講師に変更。
・兼任教員の井上講師の退職により、兼任教員の首藤教授、兼任教員の炬口教授、兼任教員の窪田教授、兼任教員の大光教授が担当。
・兼任教員の吉川講師の退職により、兼任教員の小林講師に変更。
・兼任教員の藤岡講師の退職により、兼任教員の田中講師に変更。
・兼任教員の任講師の退職により、兼任教員の王講師に変更。
・兼任教員の二ノ坂講師の退職により、兼任教員の岡崎講師に変更。
・兼任教員の三原講師の退職により、兼任教員の谷講師に変更。
・兼任教員の谷口講師の退職により、兼任教員の谷講師に変更。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇〇月教員審査済」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は削除せず、斜線を入れてください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時 における設置基準上 の必要教授数
12	6
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
9	3	9	7	28	2	10	3	8	6	27	1
(6)	(3)	(6)	(4)	(19)	(1)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
10	3	8	6	27	1	9	3	10	7	29	2
[1]	[-]	[Δ 1]	[Δ 1]	[Δ 1]	[-]	[-]	[-]	[1]	[-]	[1]	[-]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ 1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ 1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
教授 65 その他 60	6	11
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{27}{28} = \boxed{96.42} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{6}{27} = \boxed{22.22} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{1}{2} = \boxed{50} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
1	教授	荒井 春生	R2. 3	必修	看護倫理	①	R2. 3 自己都合による就任辞退（2）
				必修	精神看護学概論	①	
				必修	メンタルヘルス論	①	
				必修	精神看護援助論	①	
				必修	精神看護学実習	①	
				必修	統合実習	①	
				必修	国際看護学	①	
				必修	がん看護学	①	
				必修	チーム医療	①	
				必修	総合看護学演習	①	
				必修	スタディスキルセミナー	①	
				必修	キャリアデザインセミナー	①	
				必修	看護学研究Ⅱ	①	
				必修	看護学研究Ⅲ	①	
2	講師	村井 孝子	R2. 3	必修	看護学概論	①	R2. 3 自己都合による就任辞退（2）
				必修	看護援助技術Ⅰ（看護基本技術）	①	
				必修	看護援助技術Ⅱ（日常生活の援助技術）	①	
				必修	看護援助技術Ⅲ（診断・治療に伴う援助技術）	①	
				必修	看護基本技術Ⅳ（フィジカルアセスメント）	①	
				必修	看護援助技術Ⅴ（看護過程）	①	
				必修	基礎看護学実習Ⅰ	①	
				必修	基礎看護学実習Ⅱ	①	
				必修	統合実習	①	
				必修	チーム医療	①	
				必修	総合看護学演習	①	
				必修	スタディスキルセミナー	①	
				必修	キャリアデザインセミナー	①	
				必修	看護学研究Ⅰ	①	
				必修	看護学研究Ⅱ	①	
				必修	看護学研究Ⅲ	①	
3	助教	尾田 登志子	R2. 3	必修	看護学概論	①	R2. 3 自己都合による就任辞退（2）
				必修	看護援助技術Ⅰ（看護基本技術）	①	
				必修	看護援助技術Ⅱ（日常生活の援助技術）	①	
				必修	看護援助技術Ⅲ（診断・治療に伴う援助技術）	①	
				必修	看護基本技術Ⅳ（フィジカルアセスメント）	①	
				必修	看護援助技術Ⅴ（看護過程）	①	
				必修	基礎看護学実習Ⅰ	①	
				必修	基礎看護学実習Ⅱ	①	
				必修	統合実習	①	
				必修	チーム医療	①	
				必修	総合看護学演習	①	
				必修	スタディスキルセミナー	①	
				必修	キャリアデザインセミナー	①	
				必修	看護学研究Ⅰ	①	
				必修	看護学研究Ⅱ	①	
				必修	看護学研究Ⅲ	①	
4	助教	西田 志穂	R2. 3	必修	看護援助技術Ⅴ（看護過程）	①	R2. 3 自己都合による就任辞退（2）
				必修	基礎看護学実習Ⅰ	①	
				必修	基礎看護学実習Ⅱ	①	
				必修	在宅看護援助論	①	
				必修	在宅看護論実習	①	
				必修	統合実習	①	
				必修	総合看護学演習	①	
				必修	スタディスキルセミナー	①	
				必修	キャリアデザインセミナー	①	

5	教授	立石 和子	R2. 12	必修	看護倫理	①	R2. 12 自己都合による就任辞退（３）						
				必修	成人看護学概論	①							
				必修	成人看護援助論Ⅰ	①							
				必修	成人看護援助論Ⅱ	①							
				必修	成人看護学実習Ⅰ	①							
				必修	成人看護学実習Ⅱ	①							
				必修	統合実習	①							
				必修	国際看護学	①							
				必修	がん看護学	①							
				必修	チーム医療	①							
				必修	総合看護学演習	①							
				必修	スタディスキルセミナー	①							
				必修	キャリアデザインセミナー	①							
				必修	看護学研究Ⅱ	①							
				必修	看護学研究Ⅲ	①							
合計（Ｄ）					後任補充状況の集計（Ｅ）								
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）				
5	人	必修	70	科目	必修	70	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	70	科目	計	70	科目	計	0	科目	計	0	科目

- （注）・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「（３）－②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

（３）－② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
1	助教	井上 由美子	R4. 3	必須	看護学概論	①	自己都合による辞任（４）
				必須	看護援助技術Ⅰ	①	
				必須	看護援助技術Ⅱ	①	
				必須	看護援助技術Ⅲ	①	
				必須	基礎看護学実習Ⅰ	①	
				必須	基礎看護学実習Ⅱ	①	
				必須	スタディスキルセミナー	①	
				必須	看護援助技術Ⅳ	①	
				必須	看護援助技術Ⅴ	①	
2	講師	川口 弥恵子	R4. 3	必須	看護学研究Ⅰ	①	自己都合による辞任（４）
				必須	看護学研究Ⅱ	①	
				必須	基礎看護学実習Ⅰ	①	
				必須	基礎看護学実習Ⅱ	①	
				必須	スタディスキルセミナー	①	
				必須	母性看護援助論Ⅰ	①	
				必須	看護援助技術Ⅴ	①	
3	講師	日高 朱里	R4. 3	必須	看護学研究Ⅰ	①	自己都合による辞任（４）
				必須	看護学研究Ⅱ	①	
				必須	基礎看護学実習Ⅰ	①	
				必須	基礎看護学実習Ⅱ	①	
				必須	スタディスキルセミナー	①	
				必須	看護援助技術Ⅴ	①	
				必須	母性看護援助論Ⅰ	①	

合計（F）				後任補充状況の集計（G）									
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）			
3	人	必修	23 科目	必修	23	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	
		選択	0 科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	
		自由	0 科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	
		計	23 科目	計	23	科目	計	0	科目	計	0	科目	

- （注）・一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・兼任兼任教員が担当する（している）場合は「②」
- ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

（3）－③ 上記（3）－① ・ （3）－② の合計

合計（D）+（F）				後任補充状況の集計（E）+（G）									
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）			
8	人	必修	93 科目	必修	93	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	
		選択	0 科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	
		自由	0 科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	
		計	93 科目	計	93	科目	計	0	科目	計	0	科目	

（3）－④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-③合計(D)+(F)}{(2)-②設置時の計画(A)} = \frac{8}{28} = 28.57 \%$$

- （注）・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

（3）－⑤ 令和3年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

3 人

- （注）・（3）－①、（3）－②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

（3）－⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別		担当予定科目	後任補充状況		辞任等の理由					
合計						後任補充状況の集計							
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- （注）・**定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、

「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

（４）専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専任教員の就任辞退による学生への影響を最小限とするため、昨年度と同様に、兼担や兼任ではなく、就任を辞退した教員と同じ領域を専門とする専任教員を補充し、学生へのフォローが常時可能となる環境づくりに努める。

（注）・ 上記（３）の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (令和元年)	・「特待生チャレンジ入試」について、より具体的な制度設計を行うとともに、当該入試を経て入学した学生に対して期待する「チューデントアシスタント (SA)、オープンキャンパス時の受験生への説明、フレッシュマンセミナー時の新入生指導等」の役割、「経済的支援（授業料半額免除）を保証する」旨は、あらかじめ募集要項等に明示すること。	遵守事項 令和2年度の学生募集要項や特待生チャレンジ入試専用のチラシに、特待生チャレンジ入試を経て入学した学生に期待する役割や経済的支援について明記した。	履行中 令和3年度以降の学生募集要項にも同様の記載を行う予定である。
認 可 時 (令和元年)	・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること。	遵守事項 完成年度以降の教員組織編制を見据え、専任教員年齢構成の適正化を図るため、助教又は講師など若手教員の募集を行っている。	履行中 今後の採用計画では、定年延長をしている教員の割合を、現在の22.2%から20%台を切るまで減少させるよう努めるなど、若手教員の採用を積極的に行っていく。
認 可 時 (令和元年)	・教員の補充を必要とされた1授業科目については、科目開講時までに確実に専任教員を配置して教員を充足すること。	遵守事項 教員の補充が必要とされた「高齢者看護学実習Ⅰ」について、教員2名を補充済み。それぞれ令和元年11月および令和2年1月のAC教員審査で審査済みである。	履行済
設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年)	定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想を策定し、着実に実行すること。	指摘事項 (改善) 完成年度以降の教員組織編制を見据えた、教員組織編制の将来構想を作成した。また、専任教員年齢構成の適正化を図るため、助教又は講師など若手教員の募集を行っている。	履行中 一昨年度は学年進行中ということもあり、定年延長している教員の割合が42.1%と高かったが、今年度は全ての教員が着任し、22.2%に改善した。今後の採用計画では、定年延長をしている教員の割合を、現在の22.2%から20%台を切るまで減少させるよう努めるなど、若手教員の採用を積極的に行っていく。

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<看護学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
① 施設・設備 a 事務室 b 多目的フロア c 応接室 d 多目的便所 e 女子便所 f 男子便所 g 男子更衣室 h 保健師教室 i 女子更衣室 j 模擬病室 k 洗濯室 l ロッカー室 m 印刷室 n 教員室 o 学生相談室 p 給湯室 q 談話室 r 倉庫	① 学生の修学環境および教職員の指導環境等を改善するため、女子更衣室を別棟に移動させ看護学部棟内の講義室等の配置を変更した。 本件については、指定学校の変更承認申請を提出し、既に承認を得ている。(2) (別添1「看護棟平面図」参照) (別添2「第一薬科大学看護学部看護学科の校舎の各室の用途及び面積を変更する理由等について」参照)
② 入試区分 ・一般入試 ・大学入試センター試験利用入試 ・特待生チャレンジ入試 ・AO入試 ・指定校推薦入試 ・公募制推薦入試 ・特別入試(社会人・帰国生徒)	② 大学入学者選抜改革に準じ、入試の名称をそれぞれ次のように変更した。 ・一般選抜 ・共通テスト利用選抜 ・特待生選抜 ・総合型選抜 ・学校推薦型選抜(指定校推薦) ・学校推薦型選抜(公募推薦) ・社会人選抜・帰国生徒選抜
③ 入学試験科目 【特待生チャレンジ入試】 (必須) 面接、英語 (選択) 数学、化学、生物から2科目	③ アドミッション・ポリシーをもとに再考した結果、特待生を選抜する入試に「国語」を追加することが適当であると考え、試験科目を次のように変更した。 【特待生選抜】 (必須) 面接・英語 (選択) 数学、化学、生物、国語から2科目

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

看護学部の教員総勢5名にてファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会を設置している。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

令和3年度は毎月開催し、主要課題に対して議論を深めた。

c 委員会の審議事項等

- ・FDに関する研修会及び講習会に関する事項
- ・「学生授業評価アンケート」に関する事項
- ・「教員相互授業参観」に関する事項
- ・「教員による授業自己評価」に関する事項
- ・「学生と教職員懇談」に関する事項

② 実施状況

a 実施内容

- ・FD委員会主催講習会
- ・教員相互の授業参観
- ・新任教員のための研修会
- ・学生と教職員懇談会の開催

b 実施方法

- ・学内及び学部講師によるFD委員会主催講習会を開催。
- ・前期及び後期に教員相互の授業参観を実施。
- ・前期及び後期における「学生授業評価アンケート」を実施。
- ・前期及び後期に「学生と教職員懇談会」を実施。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・令和4年4月4日13時から、新任教員を対象とした大学組織の各委員会の活動紹介及び大学組織の研修を行った。新任教員2名（看護学部）オリエンテーションの一環として参加した。
- ・第1回FD研修会として学内講習会を実施。コロナウィルス感染症に配慮しWebでの開催。
開催日：令和3年8月31日（火）10：00～12：00
テーマ：「薬物療法に強い看護職育成のために必要な教育とは」
講師：宮崎大学医学部看護学科臨床薬理学 柳田 俊彦 教授
- ・第2回FD研修会として学内講習会を実施。コロナウィルス感染症に配慮しWebでの開催。
開催日：令和3年9月28日（火）10：00～12：00
テーマ：「シミュレーション教育の基礎的知識と実践例」
講師：高知県立大学看護学部 大川 宣容 教授
- ・前期及び後期の2回、授業終了時に「学生授業評価アンケート」を全科目において実施した。
- ・教員相互の授業参観を1教員1回/年として後期に実施した。29名中24名が参加し、感想文を提出した。
- ・学生・教員講話会は令和3年12月7日（火）16：30～17：40にかけて実施。6名の学生代表とFD委員と開催。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・「学生授業評価アンケート」及び「教員相互授業参観」の結果は、担当教員にフィードバックするとともに、「FD報告書」として全教職員に周知する予定。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・原則として、前期・後期それぞれ期末に実施する予定。

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・調査結果を各教員に通知し、また製本して図書館に直いているため、学生も教員も閲覧できるよう公表している。

（注）・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

該当なし

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

該当なし

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

該当なし

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
本学では、学則第61条に基づき、教育研究水準の向上を図るため教育研究活動等の状況について自己点検及び評価を行うこととしている。今年度は、薬学部と看護学部で個別に自己点検・評価を行うこととなり、「看護学部自己点検・評価委員会」を設置した。日本高等教育評価機構の評価基準に基づき、令和3年度の自己点検・評価を行い、それを報告書としてまとめる予定。
- ② 自己点検・評価報告書
- a 公表（予定）時期
・ 令和4年12月末 公表予定
- b 公表方法
・ 大学ホームページ上に公表予定
- ③ 認証評価を受ける計画
・ 令和6年度受審予定

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

- 設置計画履行状況報告書（令和4年度）
- a 公表予定の有無 [☒ 有 ・ 無]
- ≪ aで「有」の場合 ≫
- b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]
- c 公表方法 [☒ ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]
- ≪ aで公表「無」の場合 ≫
- d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。